

~~~~~

## 午前 10 時 00 分 開議

○岡田議長 これより本日の会議を開きます。

この際、御報告申し上げます。

本日の会議に説明のため出席を求めた者の職氏名は、配付しております報告書のとおり御了承願います。

なお、本日の議事日程は、配付しております日程書のとおり行いたいと思います。

~~~~~

第 1 市政一般に対する質問

○岡田議長 それでは、日程第 1、市政一般に対する質問を行います。

本日は、昨日に引き続き、会派による代表質問を行っていただきます。

自由創政、戸田議員。

○戸田議員（登壇） 皆さん、おはようございます。会派自由創政の戸田隆次でございます。本定例会に当たりまして、会派を代表いたしまして質問をしてみたいと思います。明快なる答弁をよろしくお願いいたします。

まず初めに、市長の政治姿勢について伺います。

第 2 次米子市まちづくりビジョンにおいて、米子市は交通の要衝としての地の利と豊かな自然が調和した 21 世紀にさん然と輝く地方都市を目指してまちづくりに挑戦し、豊かさを多くの人々に実感していただき、住んで楽しいと思える米子のまちをつくりますとあります。伊木市政 3 期目の本格的予算について対応され

るところでございますが、今後の市政運営の考え方について伺います。

次に、交通基盤の充実と歩いて楽しいまちづくりについて伺います。

高速交通網の整備を推進し、産業の発展を目指すとともに、地域公共交通の利便性の向上を図り、社会の高齢化に対応しつつ、持続可能でまち歩きが楽しくなるような施策を進めるとしてあります。歩いて楽しいまち米子へのチャレンジが待望されるところでありますが、その具現策、方向性について伺います。

次に、市民が主役・共生のまちづくりについて伺います。

まちづくりの主役であります市民の様々な地域活動や挑戦を支援し、関係機関との連携によって地域の福祉向上を図り、多様な人々が活躍できる共生社会をつくりますとあります。共生のまち米子へのチャレンジとありますが、その具現策について伺います。

次に、教育・子育てのまちづくりについて伺います。

次代を担う子どもたちの教育こそ最も重要な施策であると認識し、学校や地域、家庭を通じて行われる教育施設の充実を図ります。心豊かに伸び伸び育つまち米子へのチャレンジとあります。その具現策について伺います。

次に、地産外商のまちづくりについて伺います。

地産外商や生産性向上施策などによって地元企業の発展を支援し、それをもって必要となる賃上げの原資をつくり、地域の経済基盤強化を図ります。また、新しい時代の経済に対応できる人材の育成に力を入れますとあります。人材育成の方向性について伺います。

次に、歴史と文化に根差したまちづくりについて伺います。

地域の歴史を大切にし、文化財や歴史遺産を保護するとともに、その価値を適切に人々に知らしめ、また後世に伝える努力をします。さらに、芸術活動を支援し、私たちの生活に潤いと楽しみをつくりますとあります。主な方向性について伺います。

次に、スポーツ健康まちづくりについて伺います。

豊かな自然と共存した米子のまちの特徴を生かし、誰もがスポーツを楽しめる環境を整え、健康増進につなげるとともに、フレイル対策を推進し、健康寿命の延伸を目指すとあります。米子アリーナ等の建設状況等について伺います。

次に、災害に強いまちづくりについて伺います。

地元の防災活動を支援し、災害から逃げ遅れゼロを目指すとともに、避難所の充実を図り、災害に強いまちをつくりますとのこととあります。避難所の充実についてどのように図っていくか、見解を伺います。また、防災・減災の観点からの対応策について、併せて見解を伺います。

次に、よなごっこ未来計画について伺います。

よなごっこ未来計画については、9つの柱で構成されております。子どもたちが安心して過ごせる場所をもっと増やす、地域みんなで子どもたちの成長を支える活動を進めます。年齢に関係なく全てに通じた取組、子どもを産み育てやすい環境をつくります。いろいろな状況にある子どもや若い人たちとその家族を支える等が主なものでありますが、計画策定から1年が経過しておりまして、その分析評価について伺います。

次に、よなごっこ未来計画の進め方について伺います。

よなごっこ未来計画の進め方については、子どもや若者、みんなが主役であり、たくさんの地域の大人やボランティア、会社の事業所の人たちによって支えられることが必須であると考えます。本計画については、広く深く浸透化が図られているか伺います。

次に、米子空港における国内定期路線の充実について伺います。

米子空港における国内定期路線の充実については、新規路線の実現等による航空路線の拡充について、多くの市民からの要望を仄聞いたします。国・県に対し積極的な政策を講じられるべきではありますが、見解を伺います。

次に、新幹線の整備推進について伺います。

新幹線の整備推進については、中国横断新幹線（伯備新幹線）及び山陰新幹線の基本計画路線から整備計画路線への格上げに向けて、フル規格新幹線の整備に向けた段階的な整備の手法も研究するなど、国に対し積極的に要望されたいと考えます。また、新幹線整備推進に当たりましては、整備事業費の地元負担金の在り方の見直し及び並行在来線を経営分離しないために必要な措置の検討並びに新幹線整備予算枠の拡大について併せて働きかけるべきであります。見解を伺います。

次に、防災庁機能の誘致について伺います。

防災庁機能の誘致については、米子市を中心とした鳥取県西部地域は南海トラフ地震や津波リスクが相対的に低く、中国地方で初となる特定利用港湾及び国際機能を有する米子鬼太郎空港もあることに加え、航空・陸上自衛隊拠点の存在により、運用面においても万全な体制が備えられているところであります。また、鳥取大学医学部附属病院、災害拠点病院機能を中心とした医療イン

フラが充実していることなどから、国が令和8年度中に設置を目指す防災機能について、本市を中心とした鳥取県西部地域へ誘致すべく、国に対し強く要望されたいところであります。見解を伺います。

次に、部活動の地域展開における財政支援について伺います。

部活動地域展開における財政支援については、部活指導員の人材確保、受皿となる新規クラブの立ち上げ等の体制づくりに係る必要な財政措置の拡充を、国・県に対し強く要望されたいところでございます。見解を伺います。

次に、県営東山水泳場と皆生市民プールの統廃合による新水泳場の整備について伺います。

県営東山水泳場と皆生市民プールの統廃合による新水泳場の整備については、築40年以上が経過し、老朽化が進む県営東山水泳場について適切な競技環境確保に向け、皆生市民プールとの統廃合による新水泳場を建設すべきであると考えます。県との協議を加速すべきでありますが見解を伺います。

次に、上下水道の耐震化の促進について伺います。

上水道の耐震化の促進については、上水道の急所施設（水源地、配水池、基幹管路、汚水処理場等）や防災上重要な施設（避難所、防災拠点、病院等）に接続する上下水道管路等について、一体的な耐震化策を加速され、必要な支援を得るべく、国・県に対し強く働きかけられたいと考えます。見解を伺います。

次に、米子一境港間を結ぶ高規格幹線道路の早期事業化について伺います。

米子一境港間を結ぶ高規格幹線道路の早期事業化については、

日本海側の国際交流拠点として進化を遂げつつある米子地域が災害に強く、安全・安心な活力ある社会へさらなる発展をし地方創生を推進していくためには、その基軸となる中国横断自動車道の全面開通は必要不可欠であります。早期事業化に向けて、計画段階評価の手続を着実に進めるよう、国に対し強く働きかけられたいと考えます。見解を伺います。

次に、地方創生を軸とした人口対策の推進について伺います。

地方創生を軸とした人口対策の推進については、2023年が合計特殊出生率が1.20と過去最低を記録し、少子化への歯止めが全くかかっていないところであります。このままでは2100年には現在の人口が約半減すると言われておるところでございますが、あらゆる経済社会システムが維持できなくなると想定されるところでございます。そんな中、地方創生は人口減少対策に直接つながる極めて重要な施策であります。本市の人口対策の現状と課題について伺います。

次に、社会インフラの整備について伺います。

道路、港湾、上下水道、消防等の整備は私たちの生活の質を向上させる要素となります。社会インフラの整備を進め、災害リスクの低減等を通じて、住民の安全確保に努める必要があります。そこで、①都市計画道路整備の現状と課題について、②橋梁の点検、整備、補修の現状と課題について、③大雨による浸水被害の軽減、解消対策の現状と課題について、それぞれで伺います。

次に、都市計画道路米子駅車尾線の早期事業着手について伺います。

昭和8年に都市計画決定された米子駅車尾線は、本市にとって

交通渋滞の解消、中心市街地の活性化等多くの相乗効果が見込まれるところでございます。都市計画道路であります、鳥取県等の協議をさらに進められ、事業着手について早期に図られたいと考えます。見解を伺います。

次に、柔らかい区画整理について伺います。

柔らかい区画整理の実施により、狭隘道路解消、空き家解消、木造住宅密集地域における防災対策等に大きな期待が想定されるところでございます。国土交通省の施策に呼応し、本市においても地域の選定を行い、同事業の推進を図られたいと考えます。見解を伺います。

次に、史跡米子城跡整備基本計画について伺います。

史跡米子城跡整備基本計画については、平成31年3月の策定以降、いよいよ令和8年秋には三の丸広場が完成するなど、適切に進捗管理が図られてきたところであります。米子城跡については、本市の新たな観光地としてさらなる史跡公園の整備にとどまらず、飲食、土産などの観光消費やナイトタイムエコノミーなど、マネタイズに資する整備を伴うべきと考えます。商工会議所や周辺事業者などと連携を図りながら、稼げる観光地としての整備を目指されたいと考えます。見解を伺います。

次に、かわまち整備について伺います。

かわまち整備については、現在まで順調に整備が進み、国・県の担当エリアに続き、本市の担当部分について順調に進捗が図られているところでありますが、民有地部分の整備についてはいまだ白紙の状態であります。整備箇所は、米子城跡、城下町観光エリアと近い立地であり、まちなか観光案内所とも連携した市内観

光に資する整備が望まれることから、民有地部分の整備については、事業者任せにせず、これら隣接エリアと連携した整備となるよう目指されたいと考えます。またウオーカブル推進の観点から、新たな遊歩道を整備するなど、湊山公園親水護岸とのアクセス向上を図られたいと考えます。見解を伺います。

次に、城下町エリアの回遊性向上について伺います。

近年、米子城下町エリアを訪れる観光客が増加の傾向にあり、町家を生かした複数のゲストハウス新規整備計画が仄聞されるなど、米子城下町の魅力発信に大いに期待が集まっているところがあります。しかしながら、観光拠点であるまちなか観光案内所から国の重要文化財後藤家住宅、だんだんバス停留所に向かう際に加茂川を渡る京橋について、かねてから車と人との接触を懸念する声が上がっております。早期の解消が望まれているところでもあります。危険を回避する加茂川緑地と対岸の加茂川広場を結ぶ歩行者専用については、長年地元からの要望もあり、ウオーカブル推進や歩いて楽しいまちに資する整備と考えることから、早急の設置、検討を図られたいと考えます。見解を伺います。

次に、部活動の地域移行に伴う地域クラブの負担軽減について伺います。

学校部活動の地域移行が進められる中、地域クラブが市内公共施設を活用して活動を行う際、夜間練習などにおける照明使用料などの経費が運営上の大きな負担となっております。子どもたちの健全育成と地域におけるスポーツ・文化活動の定着を図るためにも、地域クラブの照明使用料等について負担軽減の施策を検討されたいと考えます。見解を伺います。

次に、ごみ袋価格の見直しについて伺います。

本市におけるごみ袋の価格は1リットル当たりの単価で比較すると、県内で最も高い水準であります。ごみ袋の有料化が導入された平成19年度の各基金は枯渇寸前でありましたが、有料化は妥当であったと考えます。しかしながら、伊木市長体制の下、近年は健全な財政運営により、令和6年度末には財政調整基金が約28億円、基金全体では約122億円が積み立てている現状下であります。一方で、物価高騰等が続き市民生活に大きな負担が生じておるといところでございます。全国では4割の自治体のごみ無償化とされており、ごみ排出量の抑制、環境施策との整合性について考慮する必要がありますが、市民負担軽減の観点から適正価格水準への移行について検討されたいと考えます。見解を伺います。

次に、学校体育館エアコン設置について伺います。

近年は記録的な猛暑の更新が続き、児童生徒、教職員の健康と安全が深刻に脅かされる状況下であります。また、体育館は、地域防災に係る避難所として大きな使命を帯びているところでございます。本市は、新たな学校における体育館にはエアコンを設置する方針であります。その他の学校については設置しないような状況下でございます。国の国土強靱化における5か年加速化対策では、学校等の避難所機能強化を重点目標としておるところでございます。それらの施策に呼応し、全小中学校体育館等のエアコンを設置されるよう要望したいと考えます。見解を伺います。

次に、道の駅について伺います。

道の駅については、県内で17か所が整備されてるところであ

ります。米子一境港間の高速道路は整備された場合、米子市の素通り感が否めない状況下でございます。観光客の誘導、インバウンド対策、第一次産業の活性化、雇用の創出、市政の発展の観点から、道の駅整備の促進を図りたいと考えます。米子一境港間の高速道路整備に係る地域振興策として整備することとなりますが、道の駅整備実施計画等を早急に策定され、候補地の選定に着手すべきであると考えますが、見解を伺います。

次に、新たな工業団地の整備について伺います。

米子インター周辺工業団地みのりパークも完売され、工業団地の残地も僅かと考えます。地場産業の活性化、雇用の創出、若者の定住化、都市間競争に打ち勝つ等の観点から、新たな工業団地の整備確保が必要、急務と考えられます。整備促進を図りたいと考えますが、また若者定住化は急務であると思います。見解を伺います。

次に、中海架橋の整備について伺います。

中海架橋は渋滞緩和、物流、人流の円滑化、産業、観光振興に大きく寄与するものと期待しているところでございます。事業化に当たりまして、中海架橋建設連絡協議会の早期開催が必須であると考えます。早急に島根県との調整を図り、同協議会について円滑的に開催され、事業の推進を図るべきと考えます。見解を伺います。

次に、空き家対策について伺います。

特定空家については120万円の補助があるところでございますが、特定空家になる前の空き家については、準防火地域の対象物にしか40万円の補助がないところでございます。準防火地域

空き家であれ、郊外の空き家であれ、空き家が変わりないと思料しておるところでございますが、空き家除却促進の観点から、補助制度の拡充を図りたいと考えます。見解を伺います。

次に、尾高城跡について伺います。

尾高城跡については、国の史跡に指定されたところでございますが、同城跡の管理については、私有地を公有化されたところでございますが、その後の事務については停滞感が否めないと考えておるところでございます。今後、同城跡に係る保存活用計画を策定され、円滑的管理保存体制について加速されたいと考えます。見解を伺います。

次に、こたか保育園・あがた保育園の統廃合について伺います。

大高地区については団地化が急速に進んでいる状況下でございます。保育ニーズが求められているところであり、またこたか保育園、あがた保育園ともに施設の老朽化が著しいところでございます。保小一貫教育を視野にした実施計画を早急に策定され、その事務の推進化を図りたいと考えております。見解を伺います。

次に、淀江ゆめ温泉について伺います。

淀江ゆめ温泉については、レジオネラ菌が発生し休館した経緯がございます。利用者の方に安心して安全に利用していただくことが最優先でございます。民間のノウハウ、英知を結集し、同温泉の円滑的管理運営の観点から、同施設を完全民営化すべきと考えます。公が温泉施設を保有することは望ましくないと考えております。同施設の完全民営化について加速すべきであると考えます。見解を伺います。

次に、下水道の管路について伺います。

埼玉県八潮市で発生した下水道管路陥没事故を受け、本市においても下水道管路を調査されたところであります。緊急度Ⅰ、0.39キロメートル、緊急度Ⅱ、1.69キロメートルとのことでありました。緊急度Ⅰについては、令和7年度補正予算対応されたところで実施されますが、緊急度Ⅱについては約30億円要し、5か年計画で対応するとのことであります。その対応については、ストックマネジメント等で調整をされてございますが、修繕実施計画を策定され、国の基盤強化施策を活用し、対応すべきであると考えますが、見解を伺います。

次に、米子駅南側エリアのにぎわい創出について伺います。

米子駅南側については規制緩和措置され、まためぐみ通りも整備されたところであります。しかしながら、にぎわい創出には至っていない感が否めないと思料しておるところでございます。核となる施設の誘導が求められると思考されますが、JRの跡地利用計画について仄聞するが、その後の動向について伺います。また、にぎわい創出について、仕掛けづくりが求められますが、その対応方針について伺っておきたいと思います。

次に、鳥大との連携について伺います。

鳥取大学医学部については、附属病院等の建て替え構想の具現化が図られようとしているところでございます。鳥大医学部は本市の宝であり、ランドマーク的存在であります。本市としても多角的に検討され、支援の拡充を図るべきと考えますが、見解を伺います。

次に、ファミリー・サポート・センター事業について伺います。

ファミリー・サポート・センター事業については、児童の預か

り等の援助を受ける事業を主としておりますが、令和7年度約5,000件見込んでいたが、その実態について伺います。本事業については、援助会員の確保が必須であります。どのように確保について改善されたか、またどのような方策を講じられてきたのか伺っておきたいと思えます。また、同制度において、市民の認知度が薄い感が否めません。市民への周知方法について浸透化を図るべきであります。見解を伺います。

次に、人材確保について伺います。

市長は年頭の挨拶で、ある程度ハード面は整備してきたと考えております。今後はソフト面に注力していきたいとされました。人口減少が顕著の中、本市においては、地域社会の担い手の減少、地域経済の縮小がクローズアップされておるところでございます。それらを打破すべく、人材の育成確保に向けてどのような施策を講じられていかれるのか、見解を伺います。

次に、移住定住の促進化について伺います。

人口減少が進行している現状下、本市の人口減について着手していかなければならないところであります。人口減少対策については、移住定住が一つの方策と考えております。人口減少対策、地域経済の縮小を打破すべく、地域定住対策を講ずべきと考えますが、見解を伺います。

次に、加茂川沿いの保存活用プロジェクトについて伺います。

本市は山陰の商都として栄えてきたところでございます。加茂川沿いには江戸末期の歴史的建物、町家が多数残っております。それらを観光資源として令和8年度中に完成するかわまち事業と一体化した観光名所につくり上げていく必要があると考えます。

米子駅、彫刻ロード、米子城跡、湊山公園、かわまち、加茂川周辺の周遊ルートを磨き上げることが必須であると考えます。見解を伺います。

次に、山陰歴史館について伺います。

山陰歴史館については老朽化が否めないところがございます。今後の計画概要、スケジュール等について伺います。同計画については、令和9年度中に改修工事されるとのことでありますが、その間の同施設の維持管理について伺います。本市の歴史文化資源の活用は、心豊かに暮らせるまちづくりに寄与するものと思われしとるところでございます。同館の適切な維持管理に努められたいと考えます。見解を伺います。

次に、がん検診の向上について伺います。

がん検診の受診率については、近年20%台で推移しておりますが、受診率の現状について伺います。市民の健康保持の観点から、がん検診の受診率向上は必要不可欠でございます。早急に多種多様な施策を講じられ、受診率の向上に努められるべきと考えます。また、市民啓発の現状分析について伺っておきたいと思っております。

次に、地域包括支援センター及びえしこにの運営状況について伺います。

近年は、働き方の多種多様化、単身世帯の増加、インターネットの普及等により社会構造変化が著しいところがございます。えしこにを核として、重層的な支援はされておられますが、さらなる機能強化が求められると考えております。えしこに、また、地域包括支援センターの今後の方向性について伺います。

次に、男女共同参画について伺います。

男女共同参画について、本市としても様々な施策を講じているところでございますが、生活様式の多種多様化、社会構造の変化等により、男女共同参画に係る取り巻く環境は目まぐるしく変化しておると考えます。今後、男女共同参画に資する方向性について伺います。

次に、鳥取県西部広域行政管理組合が、建設計画中の廃棄物処理施設の候補地の経過について伺います。

鳥取県西部広域行政管理組合が建設計画中であります廃棄物処理施設候補地の地元合意形成の経過について伺っておきたいと思っております。同施設については、住民生活において必要不可欠な施設であります。本市としても多角的な支援を行うべきと考えます。見解を伺います。

次に、かわまち事業について伺います。

かわまち事業については、事業についてある程度進捗されておりますが、今後のスケジュール感について伺います。また、同用地に民有地がありますが、民有地の有効活用を図るべきと考えます。所有者と意見調整はされているが、それらの交渉計画について伺っておきたいと思っております。

次に、子どもの居場所拡充について伺います。

近年は、共働き家庭が急増しており、放課後、子どもが安心して過ごせる場所が少ないという意見を多数仄聞します。それらについてどのように分析評価されているか、見解を伺います。また、各公民館において、子どもの居場所を確保することを検討、拡充すべきではないかと考えております。見解を伺います。

次に、米子市消防団員の確保について伺います。

近年は地震、台風、自然災害が多数発生している状況下でございます。そうした中、自助、公助、共助の観点から、米子市消防団の役割は最重要でございます。昨今は、米子市消防団員も高齢化し、団員数も減少傾向と仄聞いたします。米子市消防団員の確保に向けどのような施策を講じておられるか、見解を伺います。

次に、廃棄物の分別排出徹底について伺います。

本市においては、4R活動を展開し、廃棄物の減量化に取り組んでいるのは理解できるところでございます。反面、分別排出については、市民への啓発が薄いと感じておるところでございます。西部広域のリサイクルプラザにおいては、処理ラインの火災が頻繁に発生しており、その対策について、消火設備の充実を図ったとのことでございます。分別排出の徹底について、住民啓発を強化すべきと考えます。見解を伺います。

次に、中海・宍道湖・大山圏域の取組について伺います。

中海・宍道湖・大山圏域については多面的に取り組んでいると推察してるところでございますが、国の地方創生2.0を踏まえ、今後事業展開が求められると考えます。安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生、付加価値創出型の新しい地方経済の創生、DX、GXの面的展開を推進していくべきであります。今後の具現化策等について伺っておきたいと思っております。

次に、どんぐり村について伺います。

どんぐり村については、施設の老朽化が否めません。指定管理者も見込めない状況下と伺っております。公が施設を所有すべきではないと思っておりますが、民間へ売却される等の考え方がありま

すが、それらに係る事務を推進すべきと考えます。また、地元との交渉経過についても伺っておきたいと思えます。

次に、身寄りのない高齢者の支援について伺います。

昨今、高齢化や単身化などを背景に、病院や施設に入る際の保証人や金銭、財産管理、葬祭や遺品整理など、これまで家族や親族が担ってきた役割を果たす人がいない高齢者、いわゆる身寄りがいない高齢者が増加していると推察しております。本市においても、これらに係る現状分析について伺っておきたいと思えます。

次に、国家公務員兼業緩和による本市職員の兼業について伺います。

2026年4月から国家公務員の兼業、いわゆる副業が大幅に緩和されるところでございますが、今後、趣味や技術を生かした自営業や社会貢献活動が許可がされるようでございます。来年度以降の本市職員の副業の在り方について見解を伺います。

次に、中心市街地におけるスケートボード広場整備について伺います。

スケート広場整備については、議会答弁に係る検討事項等処理方針において、中心市街地等におけるスケート広場の整備に向けて、実現可能性の高い候補地の選定、検証を進め、事務の進捗化を図ると示唆されたところでございます。目標時期は令和8年3月とされておりますが、その事務の進捗状況について伺っておきたいと思えます。

以上、壇上における質問を終わりますが、引き続き質問席に着いて関連質問をしてまいりたいと存じます。よろしく願いいたします。

また、会派の同僚議員が関連質問いたしますので、重ねてよろしく願いいたします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長（登壇） 会派自由創政、戸田議員からの代表質問に対しまして、私が所管する部分につきまして答弁を申し上げます。

最初に、今後の市政運営の考え方についてでございますが、第2次米子市まちづくりビジョンで掲げました住んで楽しいまちづくりの理念に基づきまして、これまで教育と子育て支援の充実、町なかと郊外の一体的な発展などの施策をさらに発展させる形で市政運営を進めてまいりました。今後につきましても、例えば教育と子育て支援の充実につきましては、不登校対策をはじめとした多様な学びの充実に加えまして、英語教育の充実や新たな子どもの居場所づくりといった視点から、児童文化センターの在り方に係る検討を進めるなど、施策を強化してまいります。また、町なかと郊外の一体的な発展につきましても、コミュニティバスを含めたバス路線再編と併せまして、駅前通りの在り方を含め、歩行者にとって安全で魅力ある空間づくりを進め、歩いて楽しいまちを実感できるよう施策を進めてまいります。加えまして、物価高騰や自然災害への備えなど、市民生活への影響を注視しながら、状況に応じて機動的かつ柔軟な市政運営に努めてまいります。

続きまして、歩いて楽しいまちづくりについての具現策、方向性についてのお尋ねでございます。本市におきましては、車中心の移動手段から徒歩と公共交通による移動も可能となるよう、公共交通機関の利便性向上を図ると同時に、まちを歩くことが楽しいと思えるようなイベントの開催や、歩行空間の整備を行うこと

によりまして、歩いて楽しいまち米子の具現化を図っております。またそれによって、町なかと郊外が一体的に発展をする持続可能な都市を目指しております。令和8年度 of 取組例としましては、中心市街地におけるウォーカブル事業の推進によって、さらなるにぎわいの創出を図るとともに、レベル4自動運転バスの導入によって、バス運行の効率化と利便性の向上を図ってまいります。また、郊外におきましては本年4月より、弓浜地区のよねぎーバスの本格運行がスタートをしますほか、箕蚊屋地区におきましては、みのりんバスの実証運行や南部地区のコミュニティバス導入の検討などを進めてまいります。あわせまして、米子一境港間の高規格道路の整備促進のほか、米子空港発着の航空路線の拡充など、地域の内外をつなぐ交通ネットワーク整備につきましても、国や県への要望活動を含め必要な対応を講じてまいります。

続きまして、市民が主役、共生のまちづくりに向けた具現策についてでございます。本市におきましては、地域福祉活動の担い手不足や高齢化が進展する中で、包括的な支援体制の充実に重点を置きまして、令和4年4月に総合相談支援センターえしこにを、国が掲げる重層的支援体制整備の一環として先進的に設置いたしました。現在、地域からの相談に対しましては、各中学校区に整備をしております地域包括センターとも連携をしながら、個々の状況に応じた支援を行っているところでございまして、今後とも支援の強化を図りながら地域福祉の向上を果たしてまいります。また、地域コミュニティを維持していく視点といたしましては、公民館を拠点としたまちづくり活動を軸としながら、ボランティアやNPOなど多様な主体が連携をした広域的な共助の体制をつく

ることにより、地域の特性に応じたまちづくり活動を推進しております。あわせて、本年4月には人権尊重のまち米子市をつくる条例を施行する予定でありまして、市民一人一人が尊重され活躍できる社会環境の整備も進めながら、市民が主役、共生のまちづくりを実現してまいります。

続きまして、教育・子育てのまちづくりにつきまして、心豊かに伸び伸びと育つまち米子へのチャレンジの具現策についてのお尋ねでございます。市長部局の施策につきまして、幼保小の円滑な接続推進としまして、1年生アドバイザーの派遣や架け橋期カリキュラムの活用、また園と小学校の交流事業などを通じ、全ての子どもが小学校生活へスムーズに移行し適合できるよう連携を強化しているところでございます。また、子育て支援拠点の整備としまして、公立保育所の統合建て替えを進めておりまして、西保育園とねむの木保育園の統合園は来年度中に完成する予定でございます。また崎津、小鳩両保育園の統合園につきましては、現在、造成工事や設計を進めているところでございます。そのほかにも相談体制とサービスの充実として、こども家庭センターを中心とした相談体制の強化や各種特別保育を拡充することで、多様なニーズに寄り添う支援を展開しておりまして、これらの施策を確実に推進し、ビジョンに掲げる心豊かに伸び伸びと育つまちの実現に全力を尽くしてまいります。

続きまして、新しい時代の経済に対応できる人材育成の方向性についてのお尋ねでございます。デジタル技術の進展とともに、それに対応できる人材の必要性が大きくなっておりますことから、スキルアップ支援補助金を通じて、従業員のスキルの取得を進め

ていくことで、企業の生産性向上の後押しをしていきたいと考えております。また、市民一般を対象としました金融の知識を向上させる講演会を実施しまして、全体の底上げを図りますほか、商工団体が実施しております経営力向上や人材育成を目的とした各種セミナーと連携しまして、事業者の実情に即した支援策を実施してきたところでございます。

続きまして、歴史と文化に根差したまちづくりの方向性についてのお尋ねでございます。本市の歴史文化遺産の保存と活用に当たりましては、米子市文化財保存活用地域計画に基づく事業の進捗を図りまして、市民の歴史、文化に対する意識の向上や、ふるさとへの誇りと愛着を深めていくこととしております。また、芸術活動の支援につきましては、市民によります美術展覧会や秋の文化祭、音楽祭、ダンスフェスなどの参加型事業をはじめ、各文化施設で気軽に活動成果を披露できる場を提供することで市民の創作意欲を高め、誰もが表現をし参加できる環境整備を一層図っていくこととしております。

続きまして、スポーツ健康まちづくりの取組状況についてでございます。全ての方がスポーツに親しむことができる環境づくりとしましては、昨年6月に米子市民球場のスコアボードやナイター照明などの大規模改修工事を完了しまして利用を再開したところでございます。また昨年6月から米子アリーナの建築工事に着手しておりまして、令和9年度の完成に向けて整備を進めているところでございます。フレイル対策の推進としましては、令和5年度よりフレイル度チェックから予防実践を一体的に取り組んでおりまして、約3年がたちまして、判定結果の良化や地域への広

がりを感じているところでございます。今後につきましては、先月に改定をいたしました米子市フレイル対策推進指針を踏まえまして、フレイル予防の習慣化につなげてまいります。

続きまして、米子アリーナの建設状況についてのお尋ねでございますが、昨年6月に工事に着工しまして、現在も工事が続いておりますが、市民体育館の解体後に実施しました地盤調査の結果、くいの仕様を変更する必要性が生じたことによりまして、工期が3か月延長することとなりました。それによりまして、竣工予定時期は来年6月末になりまして、来年8月末頃の供用開始に向けて引き続き準備を進めてまいります。

続きまして、災害に強いまちづくりの中で、最初に避難所機能の充実についてでございます。簡易ベッドなどの資機材の導入や職員研修による災害時の対応力の向上に取り組んでおります。特に近年猛暑への対策といたしまして、指定避難所として活用しております学校体育館への空調設置を順次進めることとしておりますが、引き続き被災された方が安全に避難ができますよう、避難所の環境改善に努めてまいります。防災・減災のための対応策についてのお尋ねでございますが、まずは市民の皆様の防災意識の向上が重要ですので、出前講座や防災イベントなどを通じまして、米子避難ノートの配布や防災資機材の使用体験など、様々な啓発を実施しておりますほか、自主防災組織や消防団への支援を行っておりまして、引き続きこれらを通じまして、地域防災力の向上を図ってまいります。

続きまして、計画策定から1年が経過をいたしましたよなごっこ未来計画の分析と評価についてのお尋ねでございます。具体的な取

組としましては、先ほど教育・子育てのまちづくりについてで答弁をいたしました内容に加えて、子どもから若者全てへの支援としまして、ポータルサイトの活用や、高校生との意見交換などによります子どもや若者の声を直接把握する体制が強化されたと分析しております。次に、地域における取組への支援としましては、公民館を活用した居場所づくりを通じまして、地域全体で子どもを見守る機運が高まったと評価しております。また、子育て環境の整備としましては、一時預かり事業の拡大や子育て支援センターの土曜開所などによりまして、保護者の利便性と安心感が向上したと考えております。さらに様々な状況に応じた個別ニーズへの対応としましては、5歳児健診の受診率向上や困難を抱える世帯への学習支援など、一步踏み込んだ支援を展開できました。総括としましては、計画に基づく施策の実施によりまして、支援の網羅性は着実に高まったと認識しておりまして、今後も適切に見直しをかけて、子どもと保護者の視点に立った施策の推進に努めてまいります。

よなごっこ未来計画の浸透策についてのお尋ねでございます。各層に応じた周知や啓発に取り組んでおりまして、地域や関係団体に対しましては、学校や公民館、PTAの会合において、計画の趣旨を直接説明し理解を深めてまいりました。支援事業者に対しましては、事業者向け説明会を開催し、日々の業務と計画との関連性やその重要性を共有しまして、支援の質の向上や連携強化を図っております。また、子どもたちに対しましては、よなごっこ未来計画の子ども版を各学校に配布しましたほか、中高生のふるさと教育の授業を活用しまして、主役としての意識醸成とよな

ごっこポータルの周知を図りました。今後も、子どもや家庭、事業者、地域住民が一体となり、こどもまんなか社会の実現に向けた取組を進めてまいります。

続きまして、米子空港における国内定期路線の充実についてのお尋ねでございます。米子空港利用促進懇話会を通じました要望活動や利用促進に努めてきた結果、米子ー羽田便の6便化が継続されるなど、国内定期路線の維持拡充につながっております。令和7年度における米子ー羽田便の利用者数は、4月から12月までの合計で前年比約5%の増加と過去最多を記録しておりまして、また近年は外国人観光客による国内線の利用も増えておりますことから、民間航空会社において新規定期路線就航に向けた動きも見られるところでございます。このような状況を好機と捉えまして、今後とも鳥取県や米子空港利用促進懇話会などと連携をして、国や関係機関への働きかけを強化しますとともに、利用促進策や機運醸成に向けた情報発信なども行いながら、国内定期路線の維持拡充に取り組んでまいります。

続きまして、新幹線の整備推進についてのお尋ねでございます。本市が参画します中国横断新幹線（伯備新幹線）整備推進会議及び山陰新幹線建設促進期成同盟会の両推進組織におきまして、法定調査の早急な実施や次期整備計画路線への格上げ、並行在来線の経営分離方針の見直しなど、重ねて国への要望活動を実施しております。また、昨年度より、ミニ新幹線などによります段階的な整備手法につきましても研究を進めているところでございます。なお、国において現在、新幹線の整備財源に充当されますJRへの貸付料の増額が検討されている旨報道もございます。このよう

な検討動向も注視をしながら、引き続き沿線の関係自治体や県はもとより、他の基本計画路線に関わる推進組織とも連携をしながら、新幹線整備に向けた国への働きかけを強化してまいります。

続きまして、防災庁機能の誘致についてでございます。防災庁機能につきましては、本市をはじめとした鳥取県西部の立地特性を生かして、当地域への誘致を推進することが国家機能のリダンダンシーの確保の観点からも有効と考えておりまして、令和7年7月に国と県に対して当地域への機能誘致を要望したところでございます。また、国が令和7年12月に公表しました防災立国の推進に向けた基本方針の中で、防災庁の地方機関設置に向けまして具体的な検討が進められる方針が示されました。したがって、国による今後の検討動向をよく注視しつつ、民間団体や関係自治体とも連携をしながら、引き続き機能誘致に取り組んでまいります。

次に、新水泳場の整備についてのお尋ねでございます。県営東山水泳場につきましては築40年以上が経過しておりまして、老朽化が進んでいるだけでなく、50mプールと飛び込み用プールが屋外でありますことから、年々厳しさを増す夏の暑さにより十分な競技環境の確保が困難となってきております。一方、皆生市民プールにつきましても同じく築40年以上が経過しておりますことから、鳥取県と共同で屋内の新水泳場を整備することについて、引き続き県と協議を進めてまいります。

続きまして、米子一境港間を結ぶ高規格道路の早期事業化について、計画段階評価の手続を着実に進めるよう国へ働きかけることについてのお尋ねでございます。この米子一境港間高規格道路

につきましては、国道431号などの渋滞緩和や産業や流通の活性化、また大規模災害時の避難路の確保などの点におきまして必要不可欠な道路でございます。また、中海・宍道湖圏域の道路ネットワークの強化などの観点からも必要性は高まっております。毎年、本市と鳥取県や関係自治体などで構成をします期成同盟会や西部地域振興会などを通じまして、早期事業化に向けた計画段階評価の手続を着実に進めるよう、国土交通省や財務省、また地元選出の国会議員に対し要請を繰り返しているところでございます。現在、国により3つのルート帯の案が示されておりました、今後1つの概略ルート帯が示される予定となっております。計画段階評価を着実に進めるため、引き続き早期事業化の実現に向けた関係自治体と一体となった要望活動に取り組んでまいります。

続きまして、本市の人口対策の現状と課題についてでございます。これまで自然増や社会増を図る観点で、地元企業の生産性向上や企業誘致による雇用の創出、子育て支援や移住定住促進などの人口対策に注力してまいりました。成果も出る一方で若年層の都市部への流出や未婚化の進行が進んでおりました、あらゆる分野における人手不足の問題は、将来にわたるインフラ維持をいかに行っていくかなど、行政運営上の課題にも直面をしております。今後につきましては、広域的視点での対策も重要になると考えておりました、例えば西部圏域で生活機能を維持強化していくモデル事業や若者の出会いの場づくりなどに取り組みながら、圏域単位での人口対策も強化してまいります。

続きまして、社会インフラの整備促進についてのお尋ねでございます。最初に都市計画道路の整備の現状と課題についてござ

いますが、本市では48路線、計画延長132.57キロメートルを都市計画決定しておりまして、そのうち未着工路線が4路線、未整備延長は16.57キロメートルでございます。現在、本市の施行によります安倍三柳線と皆生温泉環状線、また鳥取県の施行によります両三柳中央線の整備を実施しております。このうち、両三柳中央線につきましては、今年度末に一部供用開始を見込んでおります。また、来年度中には皆生温泉環状線の供用開始と安倍三柳線の一部供用開始を目指して事業の進捗を図っているところでございます。未着工路線につきましては、住宅密集地を通過する路線となっておりまして、その整備には多額の費用を要しますので、事業化に当たりましては慎重な検討が必要であると考えております。次期整備路線の選定の際には、米子市都市計画マスタープランなどとの整合性を図りつつ、事業効果の高い路線の整備を優先的に検討してまいります。

次に、橋梁の点検、整備、補修の現状と課題についてでございます。本市が管理をします橋梁652橋につきまして、5年ごとに年間約130橋の定期点検を実施しまして、策定済みの長寿命化修繕計画に基づいた修繕を行っております。現在、年間事業費約2.2億円で点検と調査設計、修繕を実施しておりますが、今後は多くの橋梁で老朽化が進むものと思われまして、維持管理費の増大に伴う事業費の確保が課題となっております。

続きまして、大雨による浸水被害の軽減、解消対策の現状と課題についてでございます。雨水管理総合計画に基づきまして、重点対策地区から浸水対策事業を実施しておりますほか、河川や道路側溝の改修により、浸水被害の軽減、解消対策を行っております。

す。なお、雨水管理総合計画に基づく事業につきましては多額の事業費を必要としますので、国庫補助金などの安定的かつ継続的な財源確保が課題と認識をしております。これにつきましては、第1次国土強靱化実施中期計画におきまして5年間で事業規模20兆円強の予算が予定をされていることに鑑みまして、引き続き、国や県などへ要望活動を行い、積極的な財源確保に努めてまいります。

続きまして、都市計画道路米子駅車尾線についてでございます。この路線は、中心市街地の活性化や道路交通網の円滑化に寄与し、今後整備の必要な路線であると認識をしております。現在、鳥取県と連携を図りながら都市計画道路も含めた市内の道路ネットワークの検討を行っているところでございまして、引き続き県と連携して事業化に向けて協議を進めてまいります。

また、柔らかい区画整理の推進についてのお尋ねでございます。柔らかい区画整理につきましては、土地区画整理事業を柔軟に活用していく概念でございまして、事業期間が短くかつ小規模で合意形成が図りやすいといった特徴がございます。例えば、狭隘道路や空き家の解消ですとか、木造住宅密集地域の防火性の向上などの観点で、市街地の再編を進めることができる有効な手法と考えております。現在、この手法の活用につきましても、市内でも関心を寄せられる地域もありますので、本市としても区画整理に関する情報収集や知見を高めるために必要な予算案について、今議会で提案をしているところでございます。今後、地域住民との意見交換を重ねながら、地域の状況や課題に応じた整備手法を検討してまいります。

続きまして、米子城跡の整備について、稼げる観光地としての整備についてのお尋ねでございます。米子城跡では計画に基づく整備を進めると同時に、ダイヤモンド大山観望会やオレンジロード観望会を開催しまして誘客に努めてきたところでございます。宿泊施設の事業者が皆生温泉からマイクロバスを出していただいたり、宿泊時の見どころとして紹介してくださるなど、マネタイズにつながる連携も進んできております。今年の秋には三の丸広場が完成する見込みでありますことから、広場の近くでお土産を購入できる場所を見いだしていくなど、より一層マネタイズできる仕掛けを考えてまいります。

続きまして、中海・錦海かわまちづくり計画についてのお尋ねでございます。最初に民有地部分の整備についてでございますが、今年の5月下旬には計画に基づいて整備を行っております中海憩いのテラスが完成をいたします。中海憩いのテラスにつきましては、地域住民や観光客が水辺に親しめる憩いの場所になることを想定しておりまして、城下町エリアと湊山公園や米子城跡、さらには彫刻ロードを含む米子駅周辺を接続する結節点の役割も担うと考えております。そして民有地部分につきましては地権者に意向確認を行っておりまして、活用に向けた調整を行ってまいります。また、新たな遊歩道の整備についてのお尋ねでございます。中海憩いのテラスから湊山公園の親水護岸へのアクセスにつきましては、既存の県道、これは主要地方道米子境港線になりますが、その歩道から令和5年度に整備をしました公園内の園路を經由して親水護岸まで結ぶことにより、アクセス向上を図ったところでございます。新たな遊歩道の整備につきましては、今後の利用

状況や下水道中央ポンプ場の移設の時期などを踏まえながら検討してまいります。

続きまして、城下町エリアにおける加茂川緑地と対岸の加茂川広場を結ぶ歩行者専用橋についてのお尋ねでございます。米子まちなか観光案内所の周辺には、重要文化財に指定されております後藤家住宅など、観光の見どころが存在をしております。このエリアの周遊につきましては、当面の間は周辺市道の交通規制や歩行者動線の明確化などの安全対策を検討しながら、よなごの宝88選にも選定されております歴史的な橋でもある京橋を含む周辺の既存橋を活用する方向で考えております。

続きまして、部活動の地域移行について、地域クラブの照明使用料などの負担軽減についてのお尋ねでございます。現在、照明使用料につきましては、中体連主催大会への参加資格があり、米子市内の中学校の在籍生徒が半数以上を占めている地域クラブが地区体育館を使用する際に、一定回数までの使用料を減免しております。今後、部活動の地域展開の受皿としまして市が認定する地域クラブに対しましても同様の負担軽減策を講じてまいります。

続きまして、ごみ袋の価格の見直しについてのお尋ねでございます。ごみ袋の価格につきましては、ごみの収集、運搬及び処理に係る経費から収入を除いた経費のうち、住民の負担について2分の1を基本としつつ、周辺市町村の価格なども考慮した上で、本市議会の議決を経て決定をしております。現時点では、直ちにごみ袋の価格の見直しを行う考えはございませんが、引き続きごみの排出量、ごみの処理経費の推移を勘案しながら、現行の価格の妥当性について検証をし、ごみ袋価格の変更の必要が生じれば、

米子市廃棄物減量等推進審議会への諮問と答申を経て市議会にお諮りすることになります。

続きまして、全小中学校体育館へのエアコン設置についてのお尋ねでございます。教育環境の改善と避難所機能の向上などのためにも、体育館の築年数などに応じまして、順次改修または改築により空調整備を進めるとともに、それまでの当面の対応としまして、全ての体育館にスポットクーラーを導入していく方針としたところでございます。

続きまして、道の駅の候補地の選定、着手についてのお尋ねでございます。米子一境港間高規格道路が整備されますことにより、中海・宍道湖・大山圏域を訪れる観光客の周遊観光などの活性化につながると考えておりますが、本市を素通りされる懸念があるとの御指摘につきましては、そうならないよう施策を講じていくことは重要でございます。道の駅は、第一次産業をはじめとする地場産品の販売などを通じまして、地域の内外から消費者を呼び込むだけでなく、雇用の創出などによる地域経済の底上げも期待できるものと考えております。道の駅の整備計画の策定につきましては、今後、米子一境港間高規格道路の概略ルート帯が示される機会を捉えて、高規格道路と並行して、本市の振興策の一つとして検討していくこととなると考えております。

次に、新たな工業団地の整備促進についてのお尋ねでございます。米子インターチェンジの隣接地に整備をしました米子インター周辺工業用地と米子インター西産業用地は既に売却済みでございます。地場産業を活性化し雇用を創出して、若者の定住化を図り都市間競争に打ち勝つなどの観点から、産業用地の確保が必要

であると考えておりました、現在は次期産業用地整備については、開発手法も含めて、関係部局間で連携をして検討を行っているところでございます。

次に、中海架橋建設連絡協議会の開催と事業の推進についてのお尋ねでございます。中海架橋につきましましては、周辺の渋滞緩和や人流と物流の円滑化、産業、観光振興などの効果に併せまして、災害時の輸送路としての機能も期待されておりますことから、圏域の発展にとって重要な道路ネットワークの一部と認識しております。中海架橋建設連絡協議会の再開と事業の推進につきましましては、毎年、中海架橋建設米子市・安来市連絡会を開催しております、連携を図りながら引き続き鳥取、島根両県知事に対し要望をしていくことを確認しているところでございます。

続きまして、空き家の除却の補助制度の拡充についてのお尋ねでございます。これにつきましましては、まず近隣住民の生活環境に悪影響を与えております特定空家や災害リスクが高い準防火地域の空き家の除却を所有者に促し、市民の安全と安心の確保を図ってまいります。

次に、尾高城跡の保存活用についてのお尋ねでございます。尾高城跡の歴史的、文化的価値を後世に適切に伝えていくため、保存活用計画の策定に取り組むこととしておりました、スケジュールとしましては、令和8年度に現地の状況把握を目的に測量を実施しまして、その結果を踏まえて、令和9年度に計画を策定する予定でございます。

続きまして、こたか保育園、あがた保育園の統合建て替えの推進についてでございます。現在事業化に向けて、立地場所や規模、

小学校との連携の在り方などについて、地元の意見も伺いながら、基本構想をまとめる作業を進めております。基本構想がまとまり次第、統合園の設置に向けた設計などに着手してまいります。

続きまして、淀江ゆめ温泉の完全民営化の加速についてのお尋ねでございます。市内には民業として成り立っております温泉施設がある中で、淀江ゆめ温泉だけに公費を投じ続けることは民業圧迫となり、適当ではないことから、従来より淀江ゆめ温泉の民営化を基本方針としてまいりました。利用者に対するサービス向上や安全対策の観点からも民間のノウハウを活用した経営体制が求められますことから、次期指定管理の5年間において、完全民営化の実現を目指したいと考えております。

続きまして、J R西日本跡地利用計画についてでございます。米子駅の駅南広場に隣接をしますJ R西日本が所有していた土地につきましましては、公募による売却手続が進められまして、今年の9月下旬に落札事業者に引渡し完了したと伺っております。本市の対応としましては、昨年4月に米子駅の南側のにぎわい創出のため、駅南広場周辺の準工業地域における建蔽率と容積率を緩和したところでございます。この用地につきましましては、ホテルや商業施設などの進出につながることを期待しております。

次に、にぎわい創出の仕掛けづくりについてでございますが、J R米子駅の南口エリアにつきましましては、令和5年度にがいなロードが開通しまして、このたび、めぐみ通りの整備も終わり、近々目久美公園もリニューアルされ、さらには米子アリーナへの動線となる歩道の整備も完了をしていくなど、新たな人流が生まれるものと見込んでおります。さらに、令和8年度におきまして

は、駅南を発着点とする南部エリアのコミュニティバスの実証運行を開始することといたしまして、交通結節点としての機能を高めることで、まずは人流を活発化させて、それをにぎわい創出につなげていきたいと考えております。あわせまして、現在、市民参加型のワークショップを開催しまして、米子駅南側を含めた米子駅周辺のまちづくりの将来イメージを描く作業を進めております。今後、フォーラムなどを開催しながら、米子駅周辺のまちづくりの在り方について市民の皆さんと共有をしていくとともに、民間事業者など関係者とともに米子駅周辺のにぎわい創出に取り組んでまいります。

続きまして、鳥取大学医学部附属病院の再整備の進捗と今後の展望についてのお尋ねでございます。昨年4月に鳥取大学から鳥大病院の再整備基本構想が公表されたところでございます。令和11年度、2029年度の工事着工が予定をされております。本市は鳥取大学と令和6年7月に、湊山公園用地の提供に関する覚書を締結しておりまして、今後、再整備に必要な用地提供手続を具体的に進めていくこととしております。また、基本構想では、新病院周辺エリアをホスピタルパークとして整備する考えも示しております。そこで今後、湊山公園の魅力的なリニューアルや児童文化センターと鳥取大学との共創施設整備などの検討を進めまして、このエリアを改めて市民の憩いの場所としてより一層魅力を高めていきたいと考えております。

続きまして、ファミリー・サポート・センター事業でございますが、令和6年度の利用実績についてのお尋ねでございます。これにつきましては3,700件程度の見込みとなっております。ま

た、援助会員の確保について、その改善策についてのお尋ねでございますが、昨年の6月議会に議員から御提案をいただきまして、SNSの活用やチラシの配布箇所数を増やすこと、またフレイル予防教室での周知などを新たに行いましたところ、援助会員の登録者数が大幅に増えたところでございます。これにつきましては、委託先であります米子市社会福祉協議会と連携をしまして、引き続き広報活動を強化して市民への周知を図ってまいります。

続きまして、人材確保についてのお尋ねでございます。少子高齢化の進展によりまして、自治会活動や企業における人手不足が一層顕著となっております、それに伴って社会保障費の増加や保育や教育インフラの再編など、本市においても様々な分野で影響が生じております。このような状況で若者の域外流出をいかに防いでいくかが重要な視点と考えておりまして、魅力的な雇用の場を地域に確保していきますことは、本市としても喫緊の課題でございます。市内には国内トップシェアを占めるような優良企業も存在いたしますが、電子部品などの工業製品を製作する企業は必ずしも知名度が高くないことから、若者が地元企業のすばらしさに触れる機会に恵まれず、結果として、大都市圏へ流出するといった状況も見受けられます。そこで、ふるさと教育など若者に対して地元企業への理解を深めてもらう機会を設けますとともに、積極的な企業誘致により魅力的な雇用の場を増やしていけるよう努力してまいります。

続きまして、移住定住対策についてでございます。「住んで楽しいまち よなご」の実現に向けまして、雇用や子育て、交通など、まちの魅力向上を図り、またそれを効果的に情報発信してい

くことで移住定住の促進につなげたいと考えております。本市としましては、これまでSNSで情報発信や移住PR動画の作成や配信、県外での移住、就職相談会を利用した相談対応などの取組を重ねてまいりました。その結果、昨年度の本市への移住者数は前年度から1割増の558人となるなど、一定の成果は出ているものと考えております。今後につきましては、関係人口や交流人口にも着目をしながら、移住定住を促すための裾野を広げていくことも重要と考えております。これにつきましては、来年度から民間企業のプラットフォームを活用しまして、2地域居住の促進に向けたプロモーションを行いますほか、国が推進をするふるさと住民登録制度も活用しながら、さらなる移住定住の促進を図ってまいります。

続きまして、周遊ルートの磨き上げについてでございます。加茂川周辺には重要文化財に指定しております後藤家住宅や白壁土蔵、桜並木やお地蔵さんなど、観光の見どころが幾つも存在しております。今年5月下旬には中海・錦海かわまちづくり計画に基づいて整備を行っております中海憩いのテラスが完成をしまして、秋には米子城跡の三の丸広場が完成する予定でございます。これらの整備箇所と併せまして、加茂川周辺の観光資源を生かした市民や観光客の周遊を促進する取組を実施しまして、広範なエリアを一体的、連続的に散策できる町歩きルートの磨き上げを進めてまいります。

続きまして、山陰歴史館についてでございますが、改修そして改修計画の概要と、スケジュールについてのお尋ねでございます。山陰歴史館は市内に現存します歴史的価値の高い建造物でござい

まして、今後も博物館として適切に保存、活用していくために、老朽化した設備の改修や空調設備の設置、バリアフリー化など、市民の皆様が快適に本市の歴史に触れていただける施設を目指して整備することとしております。今後は、来年度に実施設計、令和9年度には整備工事を実施する予定としております。山陰歴史館の維持管理についてでございますが、今年度は、建物の外観照明の改修を実施したところでございます。引き続き指定管理者と連携して適切な維持管理に努めてまいります。

続きまして、がん検診受診率の現状についてのお尋ねでございます。年度によって多少の増減はございますが、おおむね20%台で推移をしております。今年度の受診率も例年と同様になる見込みでございます。市民啓発の現状分析についてでございますが、今年度はがん検診受診率向上のため、がんの特化したイベントの開催や、公民連携対話窓口「いっしょにやらいや」を活用しまして、検診の受け方や受ける必要性を伝える動画を作成しまして、市内のデジタルサイネージで放映をするなど、幅広い世代へ向け啓発を行ってきました。受診率の向上には至っておりませんが、今後も様々な手法を活用しまして、周知・啓発していきたいと考えております。

次に、えしこにと地域包括支援センターの今後の方向性についてのお尋ねでございます。まずえしこににつきましては、重層的支援体制の中核として、複雑化、多様化する福祉課題の解決に取り組んでいるところでございまして、今後はさらに多職種や地域包括支援センターをはじめとする支援関係機関との連携を強化してまいります。地域包括支援センターにつきましては、地域に密着

した支援体制の構築に向けて、市内10か所に再編整備を行ったところをごさいます。今後につきましては、センターの業務効率化を目的としたICTの導入などを通じて現場の負担軽減と質の向上を両立しながら、将来にわたって持続可能な運営体制の構築に取り組んでまいります。また、これらの窓口の役割につきまして、継続して情報発信をして周知に努めております。

続きまして、男女共同参画に資する方向性についてのお尋ねでございます。これまで第4次米子市男女共同参画推進計画に基づきます啓発活動のほか、子育て中の女性への資格、免許取得支援事業や、庁内で取り組んできました働く女性のヘルスケアの市民や企業向けの展開など、各種の取組を進めてまいりました。このような中、昨年末に閣議決定をされました地方創生に関する総合戦略におきまして、女性や若者をはじめとした多様な人材が活躍できる機会の創出が重点施策に位置づけられたことを受けまして、本市でも、女性や若者が活躍できる地域社会を構築していくことで、「住んで楽しいまち よなご」の実現に近づくものと考えております。具体的には、女性が望む働き方が実現できるスキルアップ支援や、女性が活躍している市内企業をロールモデルとした情報発信などを通じまして、誰もが自分らしく生き生きと活躍できる地域社会の構築を進めてまいります。

次に、廃棄物処理施設候補地の地元合意形成の経過についてでございます。整備主体であります鳥取県西部広域行政管理組合におきまして、自治会や居住者、事業者、営農者などの関係住民に対して丁寧かつ真摯に説明を行いまして、最終処分場につきましては、昨年7月までに候補地となっております関係4自治会から

候補地の選定等に関する同意書が提出されました。また、中間処理施設につきましては、候補地の関係住民などに対する説明会に加えまして、意見調整委員会や一般廃棄物処理施設建設候補地選定検証委員会が開催されまして、地域においてそれらの委員会についての説明会を開催し、先月6日に彦名町の4自治会の連名と彦名校区自治連合会から、それぞれ候補地の選定等に関する同意書が提出されたところでございます。廃棄物処理施設の整備に向けた本市としての支援についてでございますが、本市といたしましても、施設の整備を受け入れてくださった地域の皆様にとって、それが決してマイナスとならないような対策を併せて講じていくことが必要と考えております。現在、最終処分場と中間処理施設それぞれの周辺地区の皆様から、まちづくり施策の充実に係る要望をいただいております。今後は、例えば公共交通の充実ですとか、スポーツ公園などによる利便施設整備、さらには農業生産基盤の強化など、周辺地区のさらなる発展につながるような計画を取りまとめるとともに、周辺地区の皆様とともに、将来にわたって持続可能なまちづくりとなるよう努力をしてみたいと思います。

続きまして、中海・錦海かわまちづくり計画に基づきます整備のスケジュール感と民有地の交渉状況についてでございます。市有地につきましては、今年5月下旬に中海憩いのテラスの完成を見込んでおりまして、オープニングセレモニーの開催も予定しているところでございます。ここを市民や観光客の皆様が集う憩いの場所にするためには、民有地部分の活用も大切ですので、地権者に意向確認を行っております。有効活用に向けて引き続き調整をしてみたいと思います。

続きまして、子どもの居場所拡充についてのお尋ねでございます。最初に、放課後の子どもの居場所に係る現状の分析と評価についてでございます。子どもを取り巻く環境の変化に伴いまして、放課後に子どもが安心して過ごせる場所の確保とともに、体験や学習など、多様なニーズに応じられる場所が求められるようになっております。そこで既存の放課後児童クラブによる受皿の確保に加えまして、放課後子ども教室の推進や、公民館を活用した体験機会の創出など、地域資源を活用した多様な居場所の充実を図ることが必要であると考えております。次に、各公民館における子どもの居場所確保についてでございますが、地域コミュニティの拠点であります公民館を子どもたちが気軽に立ち寄れる場として活用するとともに、地域全体で子どもの成長を支える仕組みの構築と拡大を図るため、今年度から公民館などを活用した子どもの居場所づくりへの支援を実施しているところでございます。引き続き、地域における活動を支援をして多様な子どもの居場所の充実を図ってまいります。

続きまして、消防団員の確保に向けた施策についてのお尋ねでございます。消防団員の役割は大変重要でございます。日頃の活動に対して心よりお礼を申し上げます。本市といたしましては、消防団員の皆様に安心して活動していただくために必要な資機材の整備や補償などの充実を図っているところでございます。また、米子高専さんに御協力をいただきまして、学生向けの消防団員募集のチラシの配布ですとか、地域防災に係る授業を行うなど、若い世代へのPRにも注力をしておりまして、引き続き消防団員の確保に努めてまいります。

続きまして、ごみの分別・排出の徹底についてのお尋ねでございます。これにつきましては、ごみ分別収集カレンダーや市のホームページ、またユーチューブのよなご環境チャンネル、ごみ資源物分別アプリ「さんあ〜る」、ふれあい説明会など様々な媒体や機会を活用して周知・啓発を行っております。また、ごみ収集時に適切に分別していないものには理由を書いたイエローシールを貼って残したり、リサイクル推進員に指導していただくなど、ごみ排出の現場においても周知・啓発を行っております。しかしながら議員御指摘のとおり、鳥取県西部広域行政管理組合リサイクルプラザの不燃ごみ処理工程におきまして、リチウムイオン電池の混入により頻繁に発火、発煙が起こるなど、分別が徹底されていない状況もございますので、より分かりやすいチラシや動画の作成を行うなど、一層の周知・啓発に取り組んでまいります。

続きまして、中海・宍道湖・大山圏域市長会の今後の具体的な計画についてのお尋ねでございます。昨年3月に策定をしました第3期圏域版地方創生総合戦略に基づきまして、圏域のスケールメリットを最大限に生かした海外との経済交流やインバウンド誘客、また圏域のインフラ整備促進などの施策を推進しております。来年度におきましては、昨年10月に更新をしました経済交流拡大を目指す覚書を契機としましたインド・ケララ州との連携強化や台日産業連携推進オフィス（TJPO）と連携をしたIT社会実験の実施、さらには中海・宍道湖8の字ルートの早期完成などに向けた要望活動の強化を図ってまいります。また、観光面では、台湾と韓国を核とした誘客促進や、欧米豪からの誘客を狙いとしたインバウンド戦略の策定など、持続的な観光地づくりも併せて

展開していくこととしております。今後ともこれらの事業を通じまして、圏域単位で実効性ある地方創生が実現できますよう取り組んでまいります。

続きまして、どんぐり村の民間への売却についてのお尋ねでございます。現在指定管理者でございます本宮観光農事組合から来年度以降の指定管理指定を辞退する申出がございましたので、淀江どんぐり村の指定管理につきましましては、本年3月末をもって終了することとなります。今後の施設の在り方につきましましては、まずは民間への売却を進めることで検討を始めております。地元との交渉経過についてでございますが、本宮観光農事組合と地元自治会におきましては、今後淀江どんぐり村を活用する意向はないことを確認をしております。

続きまして、本市における身寄りのない高齢者の現状分析についてのお尋ねでございます。高齢化の進展や単身世帯の増加に伴いまして、行政による身寄りのない高齢者の安否確認や火葬対応などは年々増加しております。そのほかにも、頼れる身寄りのない高齢者の直面する課題の多くが、支援に携わるケアマネジャーなどの福祉事業者にとっても多大な負担となっている現状を踏まえまして、現在解決に向けた関連施策の展開に取り組んでおります。

続きまして、国家公務員の兼業制度変更に係る本市職員の兼業についてのお尋ねでございます。本市におきましては、令和6年4月に米子市職員兼業許可等事務取扱規程を制定しまして、職務遂行に支障のない範囲で兼業の基準の明確化をし、運用しているところでございます。引き続き、国の運用実態や他の自治体の動

向を注視しまして、本市における兼業の在り方について研究してまいります。

続きまして、中心市街地におけるスケートボード広場の整備についてのお尋ねでございます。これまで実現の可能性が高い候補地の検討と、近隣住民など関係者との調整に向けた準備を進めてきたところでございます。今後スケートボードの利用者の意見を聞くなどによりまして、改めてニーズの把握を行い、利用者のニーズにかなった施設として整備できるよう、引き続き検討を進めてまいります。

私からは以上でございます。

○岡田議長 浦林教育長。

○浦林教育長（登壇） 会派自由創政、戸田議員の代表質問の教育委員会所管部分についてお答えいたします。

まずは、教育・子育てのまちづくりの具現策についてのお尋ねでございます。まちづくりビジョンに掲げております教育・子育てのまちづくりのうち、教育委員会の施策につきまして、幾つか具現策をお答えいたします。

まず、不登校対策につきましては、こども総本部との一体的な取組による支援やスクールソーシャルワーカーの拡充といった相談支援体制や教育支援センターぷらっとホームや校内サポート教室の設置、また民間フリースクールへの通所支援といった多様な学びの場の充実を図ってきたところでございます。引き続き、子どもへの支援や学びの場の充実について注力していきたいと考えております。

次に、中学校部活動の地域展開等につきましては、これまで部

活動指導員等の地域人材の確保や複数校による合同部活動の実施など地域連携を進めてきたところでございます。令和8年度からは新たに本市独自の認定クラブ制度を立ち上げまして、部活動の地域展開を加速させていきたいというふうに考えております。引き続き国や県の動向を注視しながら、持続可能な体制づくりに努めていきたいと考えております。

次に、コミュニティ・スクールにつきましては、令和6年度に市内全ての小中学校に学校運営協議会を設置しまして、子どもたちの豊かな育みのための熟議や、地域学校協働活動の実施等に努めてきているところでございます。今後も地域ボランティアによる学習支援や見守り活動の活発化を図り、地域と共にある学校としての活動の強化に努めていきたいと考えております。

次に、部活動の地域展開における財政支援についてでございますが、部活動の地域展開を推進し円滑に運用していくために、部活動指導員をはじめとする地域人材の確保や受皿となる地域クラブ活動の立ち上げなどの体制づくりは重要であるというふうに認識をしております。本市としましては、こうした取組を着実に進めるために、必要な財政支援措置の拡充について、国や県に対しまして引き続き強く要望し、持続可能な体制づくりの構築に努めたいと考えております。以上でございます。

○岡田議長 下関上下水道局長。

○下関上下水道局長（登壇） 会派自由創政、戸田議員の代表質問に対しまして、上下水道局所管の部分についてお答えいたします。

まずは、耐震化対策の加速や支援の働きかけについてござい

ますが、上下水道の耐震化については、昨年1月策定の米子市上下水道耐震化計画に基づきまして、本年度は道笑町3丁目の重要給水管路をはじめ、下水道の幹線管路やポンプ場、処理場の一部について整備を進めているところでございます。また、本年度は、必要額の配分や補助率の引上げなど、耐震化を加速していくための支援を国や県に対し強く要望したところでございまして、第1次国土強靱化実施中期計画では、令和8年度から5年間で事業規模20兆円強の予算が予定されていることから、今後も国や県、地元選出国會議員などへ要望する機会を利用しまして、より実効性のある財政支援などを働きかけ、耐震化に鋭意取り組んでまいりたいと考えております。

次に、下水道の管路の改修についてでございますが、修繕実施計画につきましましては、全国特別重点調査の結果を盛り込んだストックマネジメント計画の見直し作業を既に終えておりまして、緊急度Ⅰにつきましましては、令和8年度の完成を見込んでいるところでございます。また、緊急度Ⅱにつきましましては、5年以内の完成を目指して取り組んでいるところでございます。事業実施に当たりましては、埼玉県八潮市で発生しました事故を受けまして、国が新たに創設した個別補助金や既存の交付金を有効に組み合わせ活用し、進捗を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 大変丁寧な答弁をいただきまして、本当に衷心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

続きまして、順次関連質問をしてまいりたいと思っておりますので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

まず初めに、道の駅について、関連をして質問してまいりたいと思ひます。道の駅につきましても、県内では17か所、整備をされておられるということでございますけれども、先般も家族で道の駅ほうじょうにも出向きましたけど、すばらしい施設だなというふうに思っておるところなんですけど、そこで、視点を変えまして、まず米子一境港間の、代表質問でも質問しましたけれども、整備をされるということでございますが、これは必須で、必ずやらなければならない大事業であります。

そうした中で、一方、今の本市が素通りされるような感が否めないのではないかなというふうに私は感じておるところでございますが、当局はどのようにその辺のところを分析されておられますか、伺っておきたいと思ひます。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 本市が素通りされる危惧感の分析ということでございますが、今後、米子一境港間の高規格道路の計画が進捗する機会を捉えまして、新たな道路ネットワークによる人流や物流の変化や経済情勢を想定しながら、本市を素通りされないための地域振興策を検討する必要があると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁でも、いわゆる地域振興策に合わせて整備をしていくんじゃないかという答弁じゃなかったかというふうに思ひますが、そうした中で、今の地域振興策ということ、この道の駅についても9月の定例会でしたか、質問をしたんですけども、

やはり地域振興策、ルート帯が3ルート示されて、それがある程度、ルート帯が一つに今示されて、そこから地域振興策を並行して事務を進めていくという考え方でなかろうかなと私は推察をするわけですが、しかしやはり、地域振興策ということの観点でいけば、先んじて今の考え方を整備していくのも一つの考え方ではないかなというふうに感じているわけですが、まずスケジュール感について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 現在、道の駅の具体的なスケジュール感を持ち合わせていないところがございますが、米子一境港間の高規格道路の整備計画が進捗する機会を捉えて、ほかの地域振興策とともに検討していくこととなると考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ルート帯の、3ルート帯があって、まだこれからルートを確認していくんでしょうけれども、私は、その計画を推進する過程の中で、あわせて、スケジュール感でいけば地域振興策の一環として整備をしていくのが一つの考え方ではなかろうかなというふうに、そのような答弁の内容ではなかったかというふうに思いますけれども、私個人としては、やはり観光客のルート、そういう観光客の誘導とかインバウンド等の考え方をすれば、やはり先んじて今の道の駅の整備計画を整備して、改めて道の駅を整備していく必要があるんじゃないかなというふうに考え方を持っておるんですが、その辺のところはいかがなものでしょうか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 道の駅の建設計画、それから候補地のまず選定ということにつきましては、高規格道路の概略ルート帯が示されていない中で、地域振興策に関わる具体的な候補地の選定は、現在考えていないところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 質問と答弁と平行線になるんですけども、やはりそういうふうな状況下は私も理解するんですけども、しかしながら、やはり先ほども申し上げましたように、インバウンドとか、まちの活性化という観点からいけば、道の駅を先に整備をしていくというのも一つの手法ではなかろうかと私は理解するんですけど、その辺のところはどうでしょうか。

○岡田議長 答弁できますか。

伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 ちょっと繰り返しになるかもしれませんが、今、米子一境港間の高規格道路、このルートが示されていない中で、具体的な計画を立てることは、ちょっと今現在のところは考えていないところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 私は、先に通告をしておるんですけど、先んじてそういう整備計画を着手すべきでないかというふうに私は通告をしておるんですけども、やはりルート帯が整備されない中で先んじてやるのは、そういう考え方はないという答弁かなというふうに思いますけれども、しかしながら、私は、先ほど来から申し上げますように、やはり市の活性化という観点から、また他市の事例等を鑑みれば、今の米子インター周辺等にそういうふうな候補

地を選定しながら事務を推進していくべきという考え方はないのですか。私はそういうふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 今、米子インター周辺ということですが、米子インター周辺は、米子道、山陰道、国道9号、国道431号などの交通結節点でございますが、利便性の高い場所と認識しておるところでございますが、周辺の状況などを踏まえ、総合的に判断すべきと考えておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 総合的に判断とはどういうことでしょうか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 ほかの振興策、そういったことも踏まえながら、道の駅も一つの候補として総合的に判断すべきというところでは考えておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 そういうふうな理解はしたんですけど、ただ、私が先ほど来から申し上げますように、やはりルート帯をある程度、3ルート帯が示されて、それが一つに絞られて、それから改めて高速道路の整備計画なり実施計画なりが出てくるんだろうというふうに思いますが、そういうタイムスケジュールでは、相当な時間が、まだ私は要すると思っておるんです。そういうふうな観点からいけば、私は先んじてそういう施策を講じていくのも一つの考え方ではなかろうかなと私は思っておるところなんですけど、これは改めて議論したいと思いますが、先般も会派で前橋市の道の

駅を視察したんですが、そうした中で、本当に今の国交省の補助金等を有効活用をしながら、すばらしい施設を整備されておったわけですけれども、仮に道の駅を整備するに当たっては、補助メニューはどのようなメニューが該当されますか、その辺のところを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 前橋市の道の駅の補助メニューについてのお尋ねでございます。前橋市に、道の駅まえばし赤城について確認したところでございまして、総事業費約57億円で、敷地面積約7万2,000平方メートル、建築面積約7,400平方メートルで、物産販売、フードコート、災害対応型のガソリンスタンドなどが整備されておりました。前橋市の費用負担は約49億円でございまして、財源につきましては地域活性化事業債、社会資本整備総合交付金や一般財源を利用されておると伺っておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 国交省の補助金等の有効活用を図ってきたというのは理解しております。一般財源も約49億円という、相当な巨費を投じておるわけですけれども、やはり私が見たときには、附帯設備で国交省の附帯ゾーンもあって、今の前橋市の直営と国交省との直営での附帯が、それがうまくかみ合って、すばらしい道の駅ではなかったかなというようなことを考えております。

相当数、すばらしい施設ありましたし、にぎわっておるのも事実でした。たくさんの方がおいでになっておられてましたけれども、そうした中で、仮にですけれども、今の本市が道の駅を例え

ば整備する、仮にの話ですけど、整備するに当たって、附帯設備や施設整備をする内容によっては今の総事業費は変わってくるもんですけれども、やはり30億円をもし仮定とすれば、本市の負担金は幾らぐらいになりますか、想定されますでしょうか。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 本市の負担ということでございますが、道の駅につきましては直営、それからPFI方式など様々な経営方式がございまして、道の駅をすとなれば、そのときの有利な財源を考えなければいけないということで思います。

直近で整備されました西いなば気楽里及びほうじょうを例に出しますと、西いなば気楽里は、総事業費約18億円で鳥取県と鳥取市が費用負担をされまして、財源は社会資本整備総合交付金や合併特例債を活用して事業を行っておられます。そのうち鳥取市の負担分は約13.5億円とお聞きしておるところでございます。

また、ほうじょうは、総事業費約29億円でございまして、国と北栄町が費用負担をいたしまして、財源は農村漁村振興交付金、それから広域防災拠点活用施設整備事業補助金、それから合併特例債や基金などを活用して事業を行っておられまして、北栄町の負担は約17億円とお聞きしておるところでございます。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 道の駅、約29億円で、北栄町の負担が約17億円というふうに伺っております。私、ちょっと通告しておりませんが、答えられるかどうか分かりませんが、もし、例えば今、3ルート帯が示されて1ルート帯になれば、今の高速道路も加速

化されるということは思いますけれども、そうした中で、その地域振興策として事業を進めていくという今の在り方の方針ですけれども、補助金の上積みというか、何かそういうものは想定されるのでしょうか。答えられなければ仕方ありません。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 すみません、ただいまそういった資料を持ち合わせておりませんので、ちょっと御答弁ができません。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 すみません、私が今、急に思いついたものですから。ただ、地域振興策ということ进行全面的に出されておられますので、有利な起債なり補助金があるのかなと私は今思ったわけですし、そういう質問をさせていただいたんですが、そうした中で、今の代表質問にも、答弁でもありましたように、道の駅というのは第一次産業、雇用の創出、若者、いわゆる市政に大きく寄与するんだということの、当局もそういう観点は持ち合わせておられるというふうに、まず私は推察されるんですけれども、改めてそういうふうな観点を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 地元農産物の地産地消や第一次産業の活性化、それから新たな雇用の創出は本市としても重要な取組と認識しておりまして、道の駅は、本市の第一次産業の活性化等に寄与するものの一つと考えておるところでございます。まずは米子一境港間の高規格道路の計画を捉えて、地域振興策の一つとして考えてまいりたいと思っておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 地域振興策の一つの考え方だと、これはずっと前から私、この質問をしておるんですけども、答弁はそのような答弁でずっと伺っております。しかしながら、先ほど来から申し上げますように、3ルート帯から1ルート帯になって、ある程度その高規格道路の整備が、事業が整備される可能性があるかと思いますが、その実施計画等と並行するというのは、私はまだ数年かかるのではないかなというふうに思うわけですが、これも、一日も早く遂げて、完遂していかなければならない事業とは私は思っております。そうした中で、今の観光客からも先般お話をいただきました。やはり米子に入ってきたときにトイレがないと、なかなかトイレがしにくいという、そういうところは当局なり議員さんたちはどのように考えておられますかというような御質問をいただきました。確かに困ってはおります。そこで、どこまでいくのかなというふうな御意見はあったんです。米子城跡のところにトイレが、きれいなものができましたよというような御案内もするんですけども、その辺のところを当局はどのように分析されておられますか、伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 米子一境港間の高規格道路の計画が進捗する機会を捉えて、利用者の利便性も考えながら、地域振興策の一つとして道の駅も考えてまいりたいということで思っております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 利便性の向上を視点としながらその事業を図ってい

くんだという、そのことも考え方はよく理解するんですけども、先ほど来から申し上げますように、やはり並行して、今、米子一境港間の高規格道路の事務と並行して、その振興策の一つとしてやるというような考え方を私は少し待って、やはり単独的にも先んじてこの道の駅の事業を私は推進すべきではないかと考えておるところなんです、やはり先ほど来からもずっと申し上げますように、道の駅から米子城跡、そして湊山公園、かわまち、加茂川周辺の散策ロードについて、私はやはり磨きをかけていくんだと、こういう回遊ルートも私は必要ではなかろうかというふうに思いますが、市長の見解を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員、御指摘が今されましたけれども、その回遊するルートということになりますと、この中海・錦海かわまちづくり計画、今、着実に進行させていただいておりますけれども、今年の5月下旬に中海憩いのテラスが完成する予定でございます、秋には米子城跡の三の丸広場も、これも完成をする予定でございます。

これらの拠点とあわせまして、周辺の観光資源などを生かした周遊ルート、これを磨き上げるということは大切な視点であるというふうに考えてございます。そういう意味では、観光客の方が広範なエリアを散策あるいは周遊できる、そういうルートを確立させていかなければならないと、そのように考えております。

その辺り、道の駅につきましては、そうした周遊ルートとして確立できるのかどうかという視点も含めて、先ほど来、部長のほうからも答弁しておりますが、今後の米子一境港間の高規格道路

の整備状況、こうしたところの進捗も踏まえて、地域振興策として何が有効であるか、そのような視点からしっかりと考えていきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど市長からも答弁ありました、進捗状況に合わせてその辺を、地域振興策というのを見極めをしていきたいという答弁ではなかったかなというふうに思いますが、やはり私は、ほうじょうも見に行きましたけれども、すばらしい施設でした。前橋市も会派で行きましたけど、すばらしい施設だなというふうに思いましたけど、やはりこういうふうな施設を視察研修で行きますと、やはり本市にも道の駅があってもしかるべきだなというふうに私は理解をしております。

そうした中で、やはりいいタイミングで今の高規格道路の整備に当たっての地域振興策で附帯をしていくんだという考え方は、私は理解もしますけれども、しかしながら、市政のいわゆる活性化というふうな観点からいけば、単独でも本市の事業として私は扱っていいのではないかなというふうに考えますけれども、改めて市長の考え方を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 この米子というまち全体が、やはり観光客の方にとって滞留する場所、休憩も含めてですけれども、目的地として成り立っていかなければいけないということがまず大前提にございます。その中で、今進めようとしております米子一境港間の高規格道路が進捗をするという段になりますと、議員御指摘のとおり、素通りされる可能性っていうのは当然出てくるわけでございます。

そのときに、そうならないような仕掛けづくりというものは、道の駅も含めて、どういった形がよいのか、先ほど中海エリア周辺の周遊ということも出していただきましたけれども、そういうふうに人々が周遊していただけるようなルートといいでしょうか、コースというものを適切に確立するために何が必要なのかという視点で、御質問の件につきましては我々としてもしっかりと考えていきたいというふうに思っております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 この問題については、私も約10回ぐらい質問したんですかね、ある程度、当局との私の関係、いろいろと理解もする部分もあるんです。相反する部分もありますけれども、やはり私は今のこの道の駅については、本市にとって、必ず必要な施設になるのではないかなと理解しております。そうしますれば、今仄聞しますには、大山町にもそういうふうな動きがあるようですけれども、私は大山町の動きを止めるわけでも何でもありませんけれども、やはりそういうふうな近隣の市町村の動向も理解しながら、本市にとっても有利な施策を講じていく私は必要があると思いますので、何とぞ前向きな、整備手法はいろいろあるかもしれませんが、前向きに検討していただきたいというふうに思います。これは強く望んでおきたいと思います。

○岡田議長 暫時休憩いたします。

午前 11時51分 休憩

午後 1時00分 再開

○岡田議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

戸田議員。

○戸田議員 それでは、新たな工業団地の整備について伺ってみたいと思います。

本市における工業団地の残地状況について、まず伺っておきたいと思います。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 残地の状況につきましては、米子インター西産業用地をはじめ、既存の産業用地のおおむね全て売却済みとなっております。石州府と崎津に不整形な残地があるくらいで、分譲可能な一定規模以上の産業用地は、ほぼない状況となっております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど答弁いただきましたように、残地がほとんどないというような状況下でございますけれども、その内容について、当局はどのように分析評価されておられますか、その辺のところを伺っておきたいと思います。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 先ほども申しあげましたように、分譲可能な整形で一定規模以上の産業用地がほぼない状況でございますことから、進出したい企業に対しまして速やかに対応できる体制が必要であると考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ちょっと答弁が変わっておりますけれども、そういうふうな、すぐ対応できるような状況ではないというふうに私は推察するわけですが、そうした中で、若者の定住化並びに

地場産業の活性化の観点から、やはり工業団地の整備は必要と考えております。地場産業における産業の一極化、施設更新等の内容については、各企業からそういう状況も仄聞するわけでございますけれども、それぞれに対応すべきものはどうなのか、見解を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 議員がおっしゃられますとおり、若者の定住化、地場産業の活性化の観点に加え、地場産業における社業の集約化、事業拡大、古くなった施設の更新などの声も伺っておりまして、産業用地の整備は必要と考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 産業用地の整備は必要だと考えております。そういうふうな、今の社会情勢を考えれば必要であるというふうに認識しておるといふ答弁ではなかったかなというふうに思いますけれども、やはり工業団地は、今シフトしておるオーダーメイド方式は、なかなか私はそぐわないのではないかなというふうに思います。造成地の状態を、きちっと造成をして、起業する、進出する企業に状況を説明しながら売買交渉に発展をしていくというのが一つのスタンスではなかろうかというふうに思うわけですが、その辺のところは私はベストではないかと思いますが、当局はどのように考えておられますか。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 工業団地の整備についてでございますが、企業誘致においては、産業用地を準備しておく、いわゆるレディーメイド方式のほうが利点もあると認識はしております。一方で、デ

メリットとして、在庫リスクを持つことや、鳥取県の補助金を活用する際には進出企業の業種の制限を受けることが挙げられます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の米子市インター周辺のみどりパークは、今の農産法を適用して工業団地を形成したというのが一つの経過であろうというふうに思っておりますけど、そこの中でも、やはりメリット、デメリットもあった。しかしながら、それを克服して今の状況になったと私は推察しております。そういうふうな中で考えれば、今のレディーメード方式も一つの視野に置く必要があるのではないかなというような答弁でなかろうかというふうに思いますが、やはりレディーメード方式というのは、今後求められていくのではないかなと私は理解しておりますけれども、そうした中で、企業誘致については情報を迅速に仕入れて、それを情報収集しながら具現化を図っていくというのが一つの考え方でなかろうかというふうに思いますが、さきに関西事務所に副所長さんを任命されたわけですけど、その状況はどのような状況でしょうか。状況を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 関西事務所の副所長の配置についてでございます。令和7年10月1日に就任したところでございまして、現在は、まず各種同窓会をはじめとした人脈づくりや情報収集を行い、関西での活動の基盤固めを行っているところでございます。建設資材などの高騰により投資機会をうかがったり、運送コストの削減のため進出を見極めている気配も見受けられますが、リスク分散の観点から災害リスクの低い本市への関心も低くないと分析し

ているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 副所長さんを専任で置いたわけですから、その情報収集は多角的に得られておるのかなというふうに思いますけども、ただ、本市の置かれる状況というのが今の、どうでしたか、リスク、本市への関心も低くないものと推察しておるといふ考え方でございますので、その辺は了としたいんですけど、その副所長を設置されたにもかかわらず、情報というのが委員会等でもなかなか出てこないもんですから、その辺の情報提供は、私はしていくべきであろうというふうに考えております。

そうした中で、今の企業の情報収集というのについても、データ把握は最重要でございますけど、その内容について庁議等で共有化をされておられますか、その辺の状況を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 企業進出の動向の情報でございますが、経済部各課、経済戦略課、商工課、農林課なども企業の動向に関する情報を収集しているところでございます。部内で共有する体制を整えておりまして、入手した情報に関しましては、市長、副市長に報告の上、関係部局に共有をしているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 関係部局で共有しておるといふ状況下でございますので、なかなかその辺のところが見えてこない。私たちのところにはうかがえない部分があるわけですが、そうした中で、今の委員会でも説明がありましたけども、4月1日から機構改革をされ

て企業立地課を設けられると。その意図は何ですかと伺いましたら、企業の立地についての、それを独善的に対応していくんだというふうな、言葉が適切かどうか知りませんが、そういう特化をして行っていくんだという説明があったんですが、そうした中で、やはり企業誘致というふうになれば、企業の誘致、先ほどからあります地場産業の動向というのは十分に把握をしながらデータ収集をしていく必要があると思いますが、やはりそういうふうなことを鑑みれば、工業団地を整備して、企業誘致を私はずべきと思っておりますが、その辺のところを伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 地場産業の動向の把握と工業団地の整備ということについてでございますが、企業ニーズを把握する中で、企業が希望するエリアはかなり絞られております。エリアごとに検討を行い、それぞれのメリット、デメリットを上げ、企業やディベロッパーなどの意見やニーズを踏まえまして、庁内検討会を経て次期産業用地を決定したいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 次期産業用地を決定していきたいということなんですが、通告はしておりませんが、答えられるかどうか知りませんが、関連で、どのような状況かまで今、庁内では検討されておられるのでしょうか。答えられますか。

○岡田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 繰り返しになる部分もございますが、我々のところに届いているニーズがございます。それらのニーズを把握す

る中で、米子市の中でエリアをある程度整理しながらその場所を絞り込んで、なおかつ地勢的に大丈夫かどうかということに関して庁内で検討していきたいというふうに考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 そういうふうな状況かなというふうに思いますが、ちょっと視点を変えますけれども、安来市に村田製作所が進出されるというふうに伺っております。そうした中で、米子の関係者の企業さんからもいろいろな意見をいただきました。先般も、安来市においてはそれぞれの、村田製作所の関係する下請企業さんも活景気に沸いておりますよというような意見もいただきました。安来市さんにも伺いましたら、そういうふうな状況もかいま見えますよというような意見もいただいたんですけれども、やはり製造業の進出はインパクトが強い。そういうふうな観点からいけば、本市においてもそのような醸成を私は図っていく必要があるのではないかと思います。市長の見解を伺いたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員御指摘の村田製作所さんのような大規模な工場の誘致、特に製造業の誘致ということは、雇用の創出にももちろんつながりますし、税収の増にもつながるといふふうに認識をしております。そういう意味では、地域経済の活性化への期待が非常に高いということもありますので、これらにつながる取組ができるように努力をしていきたいというふうには思っております。

ただ、その一方で、今ある既存の事業所との間で人材の獲得競争が生じるということも言われておりまして、そうした場合、地元企業への影響も避けられないということも指摘をされている部

分でもございます。また、工場周辺道路での交通渋滞の発生ですとか、あるいは万が一そうした大規模工場が撤退をされた場合の地域経済へのマイナスの影響など、いろいろと懸念点などもございます。

そうしたメリットとデメリットを総合的に見極めながら、地域としまして持続可能な発展を目指した企業誘致、これを行っていきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 メリット、デメリットを検証しながら慎重に対応していきたいというふうな答弁でなかったかなと思いますが、やはり都市間競争に打ち勝つためには、そういうことも併合しながら、私は対応すべきかなというふうに考えておるわけですが、そこで雇用の創出、やっぱり若者の定住化、市政の発展の観点からいけば、企業誘致は私は必須であろうというふうに考えております。ましてや地場産業の育成支援は私たちに求められている内容かなというふうに思うわけですが、やはりそういうふうなことを鑑みれば、やはり早急に工業団地を整備されて企業誘致に努められるべきでないかと思いますが、改めて市長の見解を伺っていきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 やはりエリアごとの検討というものをまず進めていきたいと思っておりますし、また、それぞれのメリットやデメリットを上げながら、企業や土地開発業者などの意見やニーズを踏まえまして、庁内で検討会議を経て次期産業用地を決定していきたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 鳥取市なんかは、レディーメードというような形で工業団地を整備されて販売をされておられるわけですがけれども、やはり今、本市にはそういうふうな産業用地はないという答弁であったというふうに思います。

私も歩いてみますけど、今の工業団地の中身っていうのは、工業団地の形成を成しておらないような状況下なのかなと私も理解するわけですがけれども、やはり先ほども申し上げましたように、都市間競争にやっぱり打ち勝つためにも、一つは工業団地の整備は、私は必須であろうというふうに思っております。工業団地に関わる他市の状況も十分に把握しながら、他市よりも早く情報を得て、企業用地に私は努められるべきだというふうに思いますけれども、改めて、しつこいようですけど、市長の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員御指摘のとおり、やはり他市に先駆けて情報収集して、そしていち早く行動していくということは、企業誘致にとって大変重要だというふうに私どもも認識をしております。そういう意味でも、先ほど申し上げたプロセス、これをしっかりと踏まえて、そして早く次期産業用地を決定していきたいと、そのように考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど来から申し上げますように、やはり企業誘致は、私は本市にとって大きな課題といいますか、大きな施策であろうというふうに思っております。そういうふうな観点からいけ

ば、本市における最重要施策であろうというふうに私は思っておりますので、そういうふうな観点からいけば、工業団地を早急に私は整備をされるべきだというふうに思いますので、強くこの辺のところの施策展開を強く要望しておきたいというふうに思います。

次に移りたいと思います。どんぐり村について伺ってみたいと思います。どんぐり村については、施設も老朽化が著しいところでございます。今後、公が管理運営すべきでないとは私に思料しておりますけれども、民間への売却スキームについて整備すべきじゃないかと思いますが、見解を伺いたいと思います。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 民間への売却スキームの整備についてのお尋ねでございます。公共施設の適正管理の観点からも、施設の売却に向けた検討を進めているところでございます。また、施設の隣接地を鳥取県が所有していることもありますので、関係機関とも調整を図りながら事務を進めてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 事務を進めていきたいというふうな答弁であったんですが、やはりどんぐり村については、副市長さん、今のどんぐり村の外観を見たら、もう相当著しい。私は今の売却スキームとか、そういうものは早急に進めていかなければならないと思いますが、事務方トップの副市長さんはどう考えておられますか。ごめんなさい、通告せずに。

○岡田議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 どんぐり村についてでございますが、先ほど淀江

振興本部長のほうからもお答えしたとおりであります。地元のほうでも御活用の意向がないということは市長のほうからもお答えしたとおりであります。関係する鳥取県、鳥取県の駐車場と一体的に造成されておりますので、こういったところとも必要な協議を重ねながら、そもそもどういった利活用が可能かということも少し探ってみる必要もあると思っておりますけども、いずれにしても、地元はお使いにならないということでもありますので、有効活用に向けて、売却も含めて、事務をできるだけ早く進めてまいりたいと思っております。以上であります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先般も私、上がって再度どんぐり村施設を見させていただきました。やはり外観的に本当に、どう言い表せばいいかわかりませんが、老朽化が本当に著しい。そういうふうなことを市の施設として放置していくのはいかなものかなと私は思っております。そういう観点から副市長さんにお尋ねしたわけですが、やはり私は、今後は売却が進まない場合であれば更地化をして有効活用を図っていくのも一つの観点であろうというふうに考えておりますが、その辺の見解はいかがでしょうかか伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 山浦淀江支所長。

○山浦淀江支所長 売却が進まない場合の撤去についてのお尋ねでございますけれども、売却に至らない場合には、施設の撤去も検討が必要になると考えております。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 皆さんも御承知だと思いますけど、外観的に、先ほ

ども言いましたように本当に、どう言うのかな、ふさわしくないような状況下でございます。しかしながら、昨年度まで指定管理者が一生懸命頑張っておられたのは、これも一つ評価していかないければなりませんけれども、やはり今後は民間に売却するなり、それが整わなければ更地化をして有効活用を図っていくのも一つの視点であろうというふうに思いますので、その辺のスキームをしっかりと見極めながら、見定めながら方策を検討していただきたいと、これは強く要望しておきたいと思います。

次に、中海架橋の整備促進について伺ってみたいと思います。中海架橋は、代表質問でもしましたように、人流、物流、渋滞緩和に大きく寄与するというふうに考えております。同橋の事務推進については、中海架橋建設連絡協議会の推進が不可欠でございませぬけれども、その辺の状況については、現状はどのような状況なのか伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 中海架橋建設連絡協議会につきましては、平成6年から毎年開催されておりましたが、平成13年度以降、開催されていない状況でございませぬ。中海架橋の整備促進を図るためには、同協議会を再開する必要があるでございませぬ。なお、本市と安来市で構成いたします中海架橋建設米子市・安来市連絡会を毎年開催しておりまして、その中で協議会の再開について、鳥取・島根両県知事に継続して要望を行うことを確認しておるところでございませぬ。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 平成13年度以降から中海架橋建設連絡協議会が開

催されておられないという答弁であろうというふうに思いますが、そうした中で、やはり島根県がある程度のキャスティングボードを握っているのかなというふうに理解するわけですけれども、今の島根県の対応状況について伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 島根県の対応状況についてのお尋ねでございます。安来市が島根県に要望した回答書では、中海・宍道湖8の字ネットワークの整備として、境港出雲道路の早期整備、安来道路の4車線化及び米子－境港間の高規格道路の早期事業化などの推進・検討が進められておりまして、中海圏域を取り巻く道路事情が大きく変化していることから、直ちに協議会を再開する状況にはないとのことをございました。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 今の取り巻く環境が、直ちに会議を開く状況ではないという答弁でございましたけど、先般も話がありましたように、今、米子－境港高規格道路は3ルート帯を示されておられますけれども、やはり内浜産業道路帯を整備されて、中海架橋からリンクすれば、すばらしい都市構造になるのかなというふうに私は思うわけですけれども、そうではなくて、なかなかその辺のところは難しい面がある状況下でございましてけれども、やはり島根県と鳥取県、米子市、境港市が密に連携を取られて本事業の推進を私は積極的に図っていくべきであろうかというふうに思いますが、改めて見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 この中海架橋の建設促進につきましては、本市と安

来市が互いに連携をしまして、鳥取・島根両県知事に対して、まずは中海架橋建設連絡協議会が早期に再開されますよう引き続き努力しているということを確認しているところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 この中海架橋も10回ぐらい私これで質問するが、なかなか進まない。これも島根県の事情があるんでしょうけれど、ある程度島根県の以西の山陰道も整備されてきたのかなというふうに理解をするんですけれども、なかなか中海架橋の協議の場には立たないというのが一つの状況になっておるわけですが、やはり私は、中海架橋については観光振興なり経済振興、ましてや避難道路についての有効活用を図っていけるというような状況から考えれば、やはり中海架橋、私は必須な事業であるというふうに思っております。やはり、ぜひともこれから関係機関と緊密な状況判断をされて中海架橋の実現に向けて鋭意努力していただきたいと思っております。これも強く要望しておきたいと思っております。

次に、空き家対策について伺ってみたいと思っております。本市における空き家の現状について伺っていききたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 本市におきます空き家の現状についてのお尋ねでございます。本市が令和4年度から令和6年度にかけて独自に実施いたしました空き家実態調査では、市内に4,289戸の空き家を確認しております。このうち9割の空き家は目立った損傷が認められず、利活用や流通の可能性がございますが、残りの1割の空き家は、管理が十分ではなく、何らかの修繕や除却が必要であり、このうち管理不全空家が11戸、特定

空家が64戸でございました。以上です。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 空き家が約4,300戸あるとのことでした。今の特定空家、いろいろとあるわけですが、除却が進まない理由とはどのように分析評価されておられますか、その辺を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 除却が進まない理由についてのお尋ねでございます。空き家につきましては、将来的に売却する、賃貸する、維持管理する、解体するなどの方法が考えられますが、令和5年度に空き家所有者に対して行ったアンケートによりますと、今後5年以内の意向として、売却したいというのが35%、このまま維持管理したいというのが24%、解体したいというのが12%、賃貸したいが6%でございました。

空き家の除却が進んでいるか、進んでいないかについては、判断は難しいところではございますが、解体意向のある所有者は少なく、そのまま売却したい、維持管理したいという所有者が多いと認識しておるところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 分析評価の中では、解体意向のある方が少ないというふうな状況下だったのかなと思いますけれども、しかしながら、市民からはこういうふうな意見もいただきました。いわゆる解体の補助について、特定空家については140万円が補助されています。準防火地域については40万円の補助が設けられておられる。しかしながら、その他の空き家については補助がない。準防

火地域にある空き家については40万円補助がありますが、その他の空き家は補助がない。同じ空き家であって、補助が片方は40万円ありながら、片方はないというような、いわゆる不合理性があるのはいかかなものかなというような御意見もいただきました。そのような状況下の中で、やはり空き家の補助を拡大するためにも、境港市さんは5か年でキャンペーンを張られておられたんですが、私は3年間でもいいですのでキャンペーンを張られて、準防火地域以外の空き家についても40万円の補助をするというようなキャンペーンを張って除却の促進化を図っていくというような手段は講じられませんか、その辺の見解を伺っておきたいと思います。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 本市におきましては、まず近隣住民の生活環境に悪影響を与えております特定空家、これについてしっかりとといたしましょうか、補助金を出して解体を促すということをやっておりますのと、もう一つ、議員御指摘のとおり、災害リスクが高い準防火地域の老朽木造空き家の除却、これらを所有者に促すことで市民の安全と安心の確保を図っているところでございます。それ以外の空き家につきましては、現在のところ補助制度については、以前検討はしていたんですけれども、今のところ考えていないというところでございます。どういう補助が有効なのかということにつきましてはよくよく考えて、今後の空き家対策というものに生かしていきたいというふうに考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 ちょっと視点を変えますけれども、先般、田村議員

と綾部市のほうを視察してまいりました。そこで、移住定住の施策として空き家バンクを利用してきたと。空き家バンクにきちっと対応しながら、綾部市と宅建協会と各自治会と連携を図りながら空き家の解消をしてきたと。そしてもう一つは移住定住、2つのテーマが一举に解消していくというような事業もやっておられました。やはりそういうふうな一つの考え方がありますので、その辺の、綾部市の内容も今後、研究といいますか、研究を私はしていただきたいというふうに思います。市長の今の答弁もありましたけれども、やはり私はキャンペーン等を張ってでも、空き家の除却の促進化を図っていくのも一つの方策ではないかと思しますので、改めて研究等をしていただきたいと、これは要望しておきたいと思えます。

次に、学校体育館のエアコン設置について伺ってみたいと思えます。これは、委員会等でもお話がありましたけれども、改めて質問してまいりたいと思えますが、代表質問の答弁の中でも、各体育館にもスポットクーラーを設置して対応していくというような形でございますが、やはり近年は猛暑である体育館での児童生徒の授業は大変であります。熱中症が危惧されるところでありますが、また体育館は災害時の避難所に指定されるところでございまして、それらを鑑みれば、早急に、年次的に20年間のスパンでやれるというふうな答弁でしたけれども、一举にするのはなかなか難しい面がありますけれども、その辺の詳細的な、エアコンを整備するという考え方の見解を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 学校体育館の、特に改築に合わせた空調整備でござ

いますけれども、これには多額な事業費が見込まれるところがございますので、財政負担の平準化と、それから財源確保の観点から、1年に1施設ごとの改築を想定しておりまして、改築による学校体育館の整備が完了する時期は、現時点では令和24年度を見込んでいるところがございます。そのため、整備の順番が回ってくるまでの間につきましては、スポットクーラーを導入いたしまして環境改善を図ってまいり所存でございます。これらを計画的に進めていくためにも、引き続き国に対して財源のさらなる拡充を強く要望しながら、可能であれば整備期間を短縮できるよう努力してまいりたいと思います。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 市長の英断に私は敬意を表したいなというふうに思っております。やはり令和24年度を見込んでおられますけれど、やはりそのスパンを縮めれば縮められるほど快適な環境が見いだせるような状況下になると思いますので、その辺のところを十分に研究をしていただければなというふうに思いますが、そこで、財源ですけれども、国の国土強靱化における5か年加速対策債を含めて、体育館にエアコンを整備するというところでございますので、改めて市長の見解を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 この体育館の改修に合わせました空調整備につきましては、国の対策に伴って財源の優遇措置が講じられます令和15年度までの間、集中的に取り組んでいく予定としております。また、災害の種類や発生場所に応じまして空調設備を備えた体育館を避難所として活用できる体制を整えるために、市内全域の地

理的バランスや、あるいは避難所としての適性を十分に考慮して改修や改築を計画的に進めてまいりたいと考えております。

学校体育館への空調整備につきましては、約120億円の多額の事業費が見込まれておりますので、引き続き国に対しまして財源のさらなる拡充ですとか、あるいは十分な配分、これを要望いたしまして、また今後の財源動向ですとか、あるいは国庫補助金の採択状況など、これを注視しつつ着実に事業を推進してまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 着実に事業を推進されるということでございますので、本当に私は市長が英断されたのかなというふうに思いますが、やはり避難所としても利用されるわけでございますので、そういうふうな環境改善の観点からいけば、これはエアコンは必須でございますので、何とぞ早急に対応していただきますように、これも強く要望しておきたいと思っております。

次に、身寄りのない高齢者の支援について質問してまいりたいというふうに思っております。本市においても身寄りのない高齢者の安否確認や葬祭事務の対応件数は増加の一途だというふうに伺っております。また、身寄りのない高齢者が直面する課題の多くを、主にケアマネジャーなど福祉事業者が対応を迫られることが多く、福祉事業者の過大な負担となっているとのことであります。公的支援が求められると判断しますが、神奈川県の大和市においては、人生100年推進課を設置及び終活コンシェルジュを配置し、対応しているとのことでございます。本市のこの問題に係る考え方を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 身寄りのないお年寄りが増えているということ、いわゆる身寄り問題でございますけれども、本市におきましては、やはり優先的に取り組むべき喫緊の課題であるというふうに認識をしております。

現在、行政と多様な主体が連携をしまして、総合的な支援パッケージを提供する実証事業を行っております。この事業を通じまして、地域の多様な主体との新たな連携協力体制の在り方ですとか、他の制度や支援機関などへの情報提供やつなぎの手法など、本格実施に向けた課題を整理していく予定としております。今後につきましては、この実証事業で得られた知見を基に、本市の実情に即した実効性の高い支援体制の構築に取り組んでまいります。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 答弁で、支援体制の構築をしていくんだというふうに答弁があったんですが、そこから次の答弁がなかなか、質問しにくいわけですけれども、一つ、私の視点で質問を改めてしてまいりたいというふうに思います。

庁内に検討会を設置してこの問題を議論しているというふうに私、仄聞するわけですが、その状況について伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 塚田福祉保健部長。

○塚田福祉保健部長 庁内検討会の状況でございますが、令和6年5月に福祉保健部の3課で検討会を設置いたしまして、昨年11月からは米子市社会福祉協議会及び西部後見サポートセンターうえるかむに加わっていただきまして、米子市身寄りのない高齢

者等包括支援推進会議としたところでございます。

これまで、検討会における現状の課題整理等を経まして、高齢期のひとり暮らしに役立つ情報をまとめました「米子市高齢者のためのひとり暮らしあんしんガイド」を作成しましたほか、本市で初めての取組でございましたけれども、シニアのための人生設計フェアを開催するなどいたしまして、市民の皆様が御自身の将来について主体的に考えていただけるように後押しをする取組を推進してきたところでございます。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 先ほど答弁の中で、本市において「高齢者のためのひとり暮らしあんしんガイド」を作成されたということでございますが、その辺の状況を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 塚田福祉保健部長。

○塚田福祉保健部長 「ひとり暮らしあんしんガイド」についてでございますが、昨年10月に市役所各窓口や市内の公民館、地域包括支援センターなどの関係機関で配布いたしましたところ、当初用意をしました3,000部が約2か月でなくなり増刷するなど、想定を上回る大きな反響をいただいているところでございます。

地域包括支援センターや地域の民生委員さんからは、見守り訪問の際に将来の不安や暮らしの困り事を聞き取る対話のきっかけとして役立っているとの声をいただいているほか、地域のサロン活動などにおいても、将来の備えを促すための身近なツールとして活用が進んでいると伺っております。今後も、内容の充実に向けた改定を適宜行うとともに、本ガイドの継続的な周知、配布に

努めてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 「あんしんガイド」については相当な、よかったなというふうな状況下であったのかなというふうに私は理解したんですが、そこで、身寄りのない高齢者の支援については、国においても、身寄りのない高齢者等安心サポート事業、いわゆる国のモデル事業、令和7年9月、補正予算対応されたんですが、実施をされており、本市としても、この問題について喫緊に対応すべきだというふうに思いますが、先ほど答弁がありましたけれども、改めてその方向性について市長の見解を伺っておきたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 これは、先ほど少し答弁いたしましたけれども、この問題につきましても行政が中心となって取り組んでいく必要があるというふうに考えてございます。そこで、本市におきましては、国のモデル事業を活用しまして、昨年11月より開始した実証事業をはじめ課題解決に向けた関連施策の実施に取り組んでいるところでございまして、その内容につきましては、先ほど部長から答弁があったとおりでございます。いずれにいたしましても、本市としましてこの問題をしっかりと取り組んで、できる限りの課題解決に向けて動いてまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 課題解決に向けて一生懸命取り組みたいというふうな答弁だったんですが、やはり本市においても「私の人生手帳」を作成し、本案件に取り組んでいると仄聞するわけですが、

本案件については終活における最重要課題と私は認識しております。本市においても、本案件について多角的に検討し、先進事例を参考とし、事務体制のいわゆる強化、拡充を私はするべきではないかと思いますが、改めて市長の見解を伺っておきたいと思っております。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 身寄りのない高齢者の支援をはじめとします終活関連施策につきましては、今後も高齢者数の増加が見込まれますので、本市にとりましては一層重要な課題になるというふうに認識しております。したがって、既存の福祉資源ですとか、あるいは制度の活用をはじめ、官民連携によります新たな社会資源の創出など、総合的かつ多角的な取組を推進していく必要があると考えております。その取組の一環としまして、現在、既存のエンディングノートの内容を見直しまして、本市オリジナルのエンディングノート「私の人生手帳」の作成に取り組むなどしております。今後、これらの多岐にわたる施策を着実に遂行していくために適切な事務体制を整備してまいりたいと考えております。

○岡田議長 戸田議員。

○戸田議員 本案件については、社会的問題と私は思料しております。身寄りのない高齢者について公的支援の拡充が求められており、本市においても喫緊に課題解決に対応されるように要望しておきたいと思っております。市長からも前向きな答弁をいただきましたので、私は了としたいと思います。

これで質問を終わりますけれども、この質問で終わりになります。本当に皆さん方には12年間お世話になりました。ありがと

うございました。

当局については、市民目線での施策を講じられるように強く要望しておきたいと思います。本当にありがとうございました。ありがとうございました。